

平成25年度

事業報告書
決算書



東日本大震災復興支援イベント 「大船渡さんまつり in おおまち」
(市民ふれあい広場 10/5)

社会福祉法人 大町市社会福祉協議会

平成25年度

事業報告書



～雪かき支援員の活動～（平海ノ口）

社会福祉法人 大町市社会福祉協議会

— 目 次 —

I 地域福祉推進基盤の強化

1. 法人運営基盤の強化 ……(P1)
 - (1) 法人運営事業
 - (2) 会員組織の強化
 - (3) 赤い羽根共同募金運動の推進
 - (4) 苦情解決(第三者委員)機能の充実
2. 災害時支援態勢の強化 ……(P17)
3. 公益事業の推進 ……(P18)
 - (1) 大田市総合福祉センター管理運営事業
 - (2) 八坂総合福祉センター管理運営事業
 - (3) 美麻総合福祉センター管理運営事業

II お互いさまのまちづくり

1. ご近所支え合い事業 ……(P20)
2. ふれあいのまちづくり事業 ……(P20)
 - (1) 小地域福祉ネットワーク事業
 - (2) 地区社協連携強化事業
 - (3) 市民ふれあい広場の開催
3. ボランティア活動推進事業 ……(P25)
 - (1) ボランティアセンター運営事業
 - (2) ボランティア活動相互連携事業
 - (3) 災害ボランティア支援態勢整備事業

III 安心して暮らせるまちづくり

1. 生活支援活動の推進 ……(P28)
 - (1) 各種相談事業
 - (2) 福祉輸送サービス事業
 - (3) 日常生活自立支援事業
 - (4) 豊かな暮らし応援事業
2. 高齢者福祉活動の推進 ……(P32)
 - (1) 生活支援ホームヘルプサービス事業
 - (2) 生きがいデイサービス事業

3. 介護保険事業の推進 ……(P33)
 - (1) 居宅介護支援事業
 - (2) 訪問介護事業
 - (3) 訪問入浴介護事業
 - (4) 通所介護事業
 - ① デイサービスひなたぼっこ
 - ② デイサービスこすもす
 - ③ デイサービスみさか
 - ④ デイサービスみあさ

4. 障がい者福祉の推進 ……(P39)
 - (1) 障がい理解促進事業
 - (2) 余暇活動支援事業
 - (3) 障がい者就労支援事業
 - (4) 地域生活支援事業
 - ① 日中一時支援事業
 - ② いこいの家事業
 - ③ 障害福祉サービス計画支援事業
 - ④ 大北圏域障害者相談支援事業
 - ⑤ 療育支援事業
 - ⑥ 障害者地域活動支援センター事業
 - ⑦ 移動支援サービス事業
 - (5) 障がい福祉サービス事業
 - ① 障害者居宅介護事業
 - ② 多機能型障害福祉サービス事業

5. 経済的支援活動の推進 ……(P48)
 - (1) 資金貸付事業
 - (2) 災害見舞金等支給事業

IV 受け継がれるまちづくり

1. 福祉意識の啓発 ……(P50)
 - (1) 広報・啓発活動の実施
 - (2) 生活課題の調査・研究
2. 地域の担い手育成の推進 ……(P52)
 - (1) 地域の担い手育成事業
 - (2) 福祉団体等助成事業

I 地域福祉推進基盤の強化

1. 法人運営基盤の強化

(1) 法人運営事業

◆ 安定した法人運営

当面する課題について定例の三役会と所属長会議で協議し、法人の重要事項に関する意思決定は理事会・評議員会を開催し、変動する地域社会の情勢に対する柔軟かつ的確な対応に努めた。

① 三役会の開催

毎月1回三役会を開催し、社会福祉協議会の円滑な事業運営を図るため協議を行った。

② 所属長会議の開催

毎月1回各事業所の代表による所属長会議を開催し、法人の円滑なる運営のため協議を行った。また、併せて安全衛生委員会を開催し、各職場の安全衛生管理に努めた。

③ 理事会の開催

回数	開催日	内 容	
第1回	4月1日	議案	第1号 正副会長の選出について 第2号 各部会委員の選任について 第3号 評議員の選任について
第2回	5月21日	議案	第4号 定款の一部改正について 第5号 平成24年度事業報告の認定について 第6号 平成24年度一般会計決算の認定について 第7号 平成24年度公益事業特別会計決算の認定について 第8号 平成24年度就労支援事業特別会計決算の認定について 第9号 平成25年度一般会計補正予算（第1次）について
第3回	9月18日	報告	第1号 専決処分の報告について 職員給与規程の一部改正について
		議案	第10号 育児・介護休業に関する規則の一部改正について 第11号 福祉車両貸出要綱の一部改正について 第12号 一般会計補正予算（第2次）について
		協議	第1号 社会福祉功労者の選考について
第4回	1月24日	協議	第2号 発達障害サポート・マネージャーの配置について 第3号 生活困窮者自立支援法に基づく総合相談窓口の設置について 第4号 福祉輸送サービス事業について 第5号 積立金の目的別設定について
第5回	3月18日	報告	第2号 欠員に伴う理事の選任について 第3号 専決処分の報告について 福祉輸送サービス事業運行規程の一部改正について
		議案	第13号 経理規程の全部改正について
			第14号 事業運営費積立金規程の一部改正について
			第15号 平成25年度一般会計補正予算（第3次）について
			第16号 平成25年度公益事業特別会計補正予算（第1次）について
			第17号 平成25年度就労支援事業特別会計補正予算（第1次）について
			第18号 平成26年度事業計画について
			第19号 平成26年度予算について

④ 評議員会の開催

回数	開催日	内 容	
第1回	5月21日	議案	第1号 定款の一部改正について 第2号 平成24年度事業報告の認定について 第3号 平成24年度一般会計決算の認定について 第4号 平成24年度公益事業特別会計決算の認定について 第5号 平成24年度就労支援事業特別会計決算の認定について 第6号 平成25年度一般会計補正予算（第1次）について
第2回	9月18日	報告	第1号 専決処分の報告について 職員給与規程の一部改正について
		議案	第7号 育児・介護休業に関する規則の一部改正について 第8号 福祉車両貸出要綱の一部改正について 第9号 平成25年度一般会計補正予算（第2次）について
		報告	第3号 欠員に伴う理事の選任について 第4号 専決処分の報告について 福祉輸送サービス事業運行規程の一部改正について
第3回	3月18日	議案	第10号 経理規程の全部改正について 第11号 事業運営費積立金規程の一部改正について 第12号 平成25年度一般会計補正予算（第3次）について 第13号 平成25年度公益事業特別会計補正予算（第1次）について 第14号 平成25年度就労支援事業特別会計補正予算（第1次）について 第15号 平成26年度事業計画について 第16号 平成26年度予算について

⑤ 専門部会（総合企画部会、地域福祉部会）の開催

当初、総合企画部会では積立金の目的別設定について、地域福祉部会では福祉輸送サービスについて協議する予定であったが、いずれも全体に関わる内容であると判断し、平成26年度新規事業の内容と併せて、第4回理事会において協議した。

⑥ 新任役員等研修会の開催

4月1日の役員改選により、新たに就任した理事・監事及び苦情解決第三者委員を対象に、本会の組織・沿革・事業活動・予算等についての研修会を開催した。

開催日時	4月25日（木） 9時30分～12時00分
参 加 者	22名（理事9名、監事1名、第三者委員3名、事務局職員9名）



新任役員等研修会の様子

⑦ 長野県社会福祉大会の開催

大町市では平成10年度以来15年ぶりの開催となった第62回長野県社会福祉大会では、主催者の一員として、参加者募集（約150名）、事例発表者あっせん、当日の運営協力等を行なった。

開催日時	9月11日（水） 13時00分～16時15分
会 場	大町市文化会館大ホール（1,144席）
参 加 者	1,091人
大会内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 式典（表彰、共同募金に対する感謝、来賓祝辞） ● 住民支え合い活動報告 「地域おこし協力隊」 小谷村地域おこし協力隊 植田博士氏 「しょうがねえーやってるだいな」 大町市ゆずり葉の会代表 中島節子氏 ● 講演 「チャレンジ 一夢がかなうときー」 パシフィック・ジャパン日本理事長、元マラソンランナー 有森裕子氏 ● 大会アピール（大町北高校放送部）



式典の様子



ほぼ満席となった文化会館大ホール



「ゆずり葉の会」による活動報告



講演する有森裕子氏

【評価】

- 三役会・所属長会議では、法人全体に関わるタイムリーな案件について協議し、課題解決と情報共有を図ることができた。
- 第4回理事会では、対応困難な課題について協議し、その後の理事会・評議員会の議案の基礎となる意見を聞くことができた。
- 今年度については専門部会の開催を見送ったが、次年度以降は必要に応じて開催し、各専門分野における課題解決に向けて協議していきたい。
- 新任役員等研修会では、本会の組織や事業活動についての理解を深めていただくことができた。今後も2年に一度の役員改選期には同様の機会を設けたい。
- 長野県社会福祉大会では、多くの参加者を得ることができ、内容についても参加者からは大変好評であった。

◆ 主な会議・行事等

期 日	内 容	備 考
4月18日(木)	市町村社協事務局長会議出席	長野市
4月22日(月)	市町村共同募金事務局担当者会議出席	松本市
4月24日(水)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会①開催	総合福祉センター
//	大町市民生児童委員協議会全体会出席	市役所
4月25日(木)	社協新任役員研修会開催	総合福祉センター
5月16日(木)	6地区社協連絡協議会開催	//
5月20日(月)	市民ふれあい広場幹事会開催	//
5月24日(金)	県社協評議員会出席	長野市
5月30日(木)	県共同募金会評議員会出席	//
6月 4日(火)	大北ボラ・地域活動フォーラム実行委員会①出席	白馬村
6月 6日(木)	大北ブロック社協事務局長会議出席	総合福祉センター
6月12日(水)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会②開催	//
6月15日(土)	大北地区障がい者運動会参加	総合体育館
6月26日(水)	共同募金大町市支会委員会開催	総合福祉センター
6月27日(木)	大町市総合福祉センター運営懇話会開催	//
6月28日(金)	社協安全衛生委員会開催	//
7月 2日(火)	6地区社協との懇談会開催	//
7月 4日(木)	ボランティアセンター運営委員会①開催	//
7月 5日(金)	障害福祉サービス事業所日帰り旅行実施	アルペンルート
7月 9日(火)	市民ふれあい広場実行委員会①開催	総合福祉センター
7月16日(火)	産業医職場巡視①	//
7月29日(月)	県共同募金会評議員会出席	長野市
8月 3日(土)	やまびこまつり参加(一般参加者含む92名)	市内本通り
8月 7日(水)	ブロック社協代表者会議出席(災害応援情報交換)	長野市
//	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会③開催	総合福祉センター
8月20日(火)	産業医職場巡視②	美麻総合福祉センター
8月27日(火)	大北ボラ・地域活動フォーラム実行委員会②出席	白馬村
9月 4日(水)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会④開催	総合福祉センター
9月 9日(月)	共同募金会大町市支会委員会開催	//
9月11日(水)	第62回県社会福祉大会共催(大町市150名参加)	文化会館
9月13日(金)	市民ふれあい広場実行委員会②開催	総合福祉センター
9月26日(木)	障がい児・者希望の旅実施	諏訪方面
9月27日(金)	県社協トップセミナー出席	県松本文化会館
10月 5日(土)	市民ふれあい広場開催(大船渡さんまつり出展)	文化会館周辺
10月 6日(日)	赤い羽根共同募金「街頭募金」活動実施	ザ・ビック、カインズ
10月 9日(水)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会⑤開催	総合福祉センター
10月10日(木)	大北ボラ・地域活動フォーラム実行委員会③出席	白馬村
10月15日(火)	産業医職場巡視③	八坂総合福祉センター
10月18日(金)	大北ボランティア地域活動フォーラム参加	白馬村
10月21日(月)	大町市財政援助団体監査受入	総合福祉センター
10月25日(金)	市福祉課との懇談会開催	//
11月 6日(水)	指定管理者選定審査会(3施設)ヒアリング出席	市役所
11月 8日(金)	市福祉課新年度予算ヒアリング出席	//
//	大北ボラ・地域活動フォーラム実行委員会④出席	白馬村
11月14日(木)	市戦没者追悼式出席	大町公民館分室

11月18日(月)	先進地視察研修実施(伊那市社協、(株)JINRIKI)	伊那市
11月28日(木)	在宅介護者の集い(リフレッシュ事業)開催	明日香荘
11月29日(金)	市民生児童委員協議会全体会出席	温泉郷
12月 6日(金)	災害ボランティア講座「ボラセン設置訓練」参加	白馬村
12月10日(火)	産業医職場巡視④	ひなたぼっこ
12月14日(土)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会全体研修会開催	アブロード
12月17日(火)	産業医職場巡視⑤	美麻総合福祉センター
12月25日(水)	市制60周年記念事業実行委員会出席	商工会議所
12月28日(土)	赤い羽根共同募金「街頭募金」活動実施	ザ・ビック、カインズ
12月29日(日)	デイひなたぼっこ・こすもす入浴サービス実施	ひなたぼっこ・こすもす
12月30日(月)	デイみさか・みあさ入浴サービス実施	みさか・みあさ
12月29日(日) ～1月 3日(金)	総合福祉センター公衆浴場臨時営業 (12/29・30、1/3の3日間 151人利用)	総合福祉センター
1月14日(火)	福祉標語選考会開催(513点応募)	//
1月21日(火)	産業医職場巡視⑥	八坂総合福祉センター
1月24日(金)	6地区社協会長懇談会「障がい者施策にかかる研修」	総合福祉センター
2月 1日(土)	ボランティア交流研究集会開催	サンアルブス大町
2月 6日(木)	男性料理教室開催	大町公民館分室
2月10日(月)	市制60周年記念事業実行委員会出席	商工会議所
//	市民生児童委員協議会全体会出席	市役所
2月18日(火)	産業医職場巡視⑦	総合福祉センター
2月26日(水)	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会⑥開催	//
2月28日(金)	ブロック社協代表者会議出席(災害応援情報交換)	上田市
3月 4日(火)	ボランティアセンター運営委員会②開催	総合福祉センター
3月16日(日)	スクラム・ネット事務所移転	//
3月17日(月)	ボランティア団体情報交換会開催	//
3月20日(金)	県社協評議員会出席	長野市



一般参加者とともに踊った「やまびこまつり“社協連”」(8/3 市内本通り)

◆ 寄附採納

① 寄附者一覧（寄附金）

寄附金は、寄附者の意向を確認し、使途が特定されているものはその経費に活用したほか、使途が特定されていないものについては、次年度以降のボランティアセンター運営委員会で寄附の目的に応じた使途を協議するため、ボランティア基金に積立てた。

期 日	寄附者（敬称略）	金額（円）
4月 3日（水）	88ボランティア	16,400
5月 3日（金）	大町ソフトボール連盟	59,600
5月 7日（火）	匿名	50,000
5月14日（水）	匿名	4,015
5月16日（木）	宮坂一（小銭寄付）	1,416
5月17日（金）	匿名	3,000
7月23日（火）	大町市元市議会議員の会	25,000
8月 2日（金）	降幡芳夫	50,000
9月18日（水）	大北地域精神障害者家族会「あすなろ会」	627,793
9月27日（金）	匿名	9,157
10月 2日（水）	鮎貝商店	11,555
10月 9日（水）	88ボランティア	5,600
10月10日（木）	陶芸の家	10,000
10月15日（火）	大北建設労働組合	7,637
11月 8日（金）	相生町老人クラブ長生会	10,331
11月12日（火）	大系タイムス友の会	45,000
11月25日（月）	大町黒部ソフトクラブ	33,600
〃	降幡芳夫	50,000
12月 5日（木）	匿名	5,000
12月12日（木）	匿名	1,830
12月20日（金）	大町市老人クラブ連合会	200,000
1月27日（月）	匿名	5,243
2月 7日（金）	大町JCシニアクラブ	30,000
2月18日（火）	長野県労働金庫大町支店運営委員会	33,980
3月 6日（火）	昭和電工(株)大町事業所	50,000
3月28日（金）	大町商工会議所女性会	2,400
合 計		1,348,557

② 寄附者一覧（寄附物品）

寄附物品は本会の事業で活用したほか、食品や消耗品等の一部は市内の福祉施設等に配布した。

期 日	寄附者（敬称略）	物 品（数量等）
5月 3日（金）	大町ソフトボール連盟	車いす2台
6月 9日（日）	神栄町女性部	日用品、タオル多数
9月17日（火）	匿名	白米60kg
11月20日（水）	信光実業株式会社大町支店	カレンダー29本
11月25日（月）	旭町老人クラブ百寿会	清拭用布多数
12月 5日（木）	降旗章	りんご20箱
12月 6日（金）	大北法人会大町支部	洗濯機、運搬台車、 ポータブルCD
12月11日（水）	山崎キミエ	手作りてまり100個

12月19日(木)	日本禁煙友愛会大町支部	デジタルカメラ、手ろくろセット、パズル、CD、ハンガーセット
12月24日(火)	北澤学	門松2本
3月4日(火)	大町ロータリークラブ	軽自動車1台(964千円相当)
3月18日(火)	大町市を愛する女性の会	福島県天栄米5kg



大町ロータリークラブより軽自動車1台寄贈(3/4)

③ 義援金一覧(義援金)

受付期間を設けて義援金箱を設置し、中央共同募金会のほか、各募集機関へ直接送金した。

送金日	義援金の内容	金額(円)
9月30日(月)	岩手県、秋田県豪雨・大雨災害義援金	7,760
//	島根県、山口県豪雨・大雨災害義援金	7,760
11月1日(金)	埼玉県竜巻災害義援金	650
//	京都府・埼玉県台風18号災害義援金	1,300
1月31日(金)	伊豆大島等台風26号災害東京都義援金	3,564
2月28日(金)	フィリピン台風救援金	5,890
4月4日(金)	東日本大震災義援金第8次(3/31までの社協受付分)	73,280
合計		100,204



大町東小学校児童より東日本大震災義援金を託される(6/10)

◆ 財政基盤の強化

定期監査の実施、経費節減の徹底、積立金の目的別設置により健全な財政運営に努めた。

また、積立金を財源に障がい者地域活動支援センターの送迎用車両1台を更新したほか、ボランティアセンターに寄贈車両1台を配備し、固定資産の適切な維持管理に努めた。

① 定期監査の実施及び大町市財政援助団体監査の受入

半期ごとの定期監査を実施し、会計帳簿と金融機関等の残高証明との照合による資産・負債の残高や、予算執行状況についての確認を行い、指摘事項の改善と適正な会計処理に努めた。

また、大町市の監査員による財政援助団体監査を受け、指摘事項の是正に努めた。

【定期監査】

監査対象	実施日	指摘事項等
平成24年度決算	5月9日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・赤字事業の要因の分析と経営改善を→分析済 ・積立金の目的別設置の検討を→分割設置済 ・過年度未収金の回収努力と時効の確認を→継続中 ・車両の維持管理態勢の整備を→次年度計画策定予定 ・法人会計外の金品管理態勢の確認を→確認済
平成25年度上半期	10月24日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・労働保険料の毎月計上の検討を→対応検討中 ・退職共済の差損の分析と対応策検討を→対応検討中 ・本部勘定の各部門への配分検討を→予算に計上済 ・施設利用者の損害補償の確認を→確認済

【大町市財政援助団体監査】

監査対象	実施日	指摘事項等
平成24年度社会福祉協議会補助金	10月21日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・積立金の使途明確化を→積立金規程改正により是正 ・退職給与引当金の適正計上を→経理規程改正により是正済 ・就労支援事業の製造原価明細書不備→次年度より作成予定

② 経費節減の徹底

経費節減のため、以下の取り組みを実施した。

項 目	実施結果・内容
床暖房の管理	季節に応じた温度設定や、休日及び年末年始に使用予定のない部屋をこまめに切るなど、床暖房の管理を徹底した結果、深夜電力料金を削減できた。（年間約270万円→251万円）
公衆街路灯のLED化	総合福祉センター周辺の公衆街路灯2機をLED電球に交換し、電力会社に定額電灯料金の変更を申請した。（月3186円→328円）
携帯電話の契約見直し	携帯電話32台について、携帯電話会社との交渉した結果、2年間の継続利用を条件に、基本料・通話料の割引率を50%から60%に引き上げていただいた。（32台で月平均45,000円→40,000円）

③ 地域福祉活動の新たな財源確保に向けた検討

市補助金の大幅削減を受け、地域福祉活動事業の新たな財源確保について検討した結果、後述の積立金の目的別設置の際に「地域福祉活動費等積立金」を設置し、年度末における自主事業の余剰金の一部を積立て、次年度以降の財源不足の補填財源とするルールを確立した。

④ 積立金の目的別設置

第4回理事会で積立金の目的別設置について協議し、3月の理事会・評議員会において、これまで一本で管理していた事業運営費積立金を、目的別に4つの積立金に分割設置する事業運営費積立金規程の一部改正案が議決された。

改正後の積立金規程では、年度末における余剰金について、一月分の人件費を上限に繰り越し、これを上回る額については、各積立金の残高と目標額との差額に応じて按分すると規定した。

【分割設置した積立金の概要】

名 称	目的（取崩要件）	目標額
人件費等 積立金	福祉人材の安定的確保及び福利厚生を図る。 （人件費（俸給、諸手当、賃金、法定福利費、退職共済費）、福利厚生費、研修費等の人材確保に要する経費に充てるとき）	1億円
設備整備等 積立金	事業に要する固定資産の取得及び維持を図る。 （土地、建物、車輛、備品、ソフトウェア等の取得及び修繕に要する経費に充てるとき）	4千万円
災害復旧費 積立金	大規模災害発生時における迅速な復旧を図る。 （大規模災害等によって停止した事業の復旧及び被災者への支援活動に要する経費に充てるとき）	7千万円
地域福祉活動 費等積立金	地域福祉活動及び生活支援活動の事業の安定的運営を図る。 （地域福祉活動及び生活支援活動の事業に財源不足が生じたとき）	4千万円
合 計		2億5千万円

⑤ 施設・設備の計画的整備

以下のとおり新たに固定資産を取得したほか、耐用年数を超過した固定資産について、必要に応じて用途変更や除却処分を行なった。

資産種別	資産名称・用途	取得価額（円）	財 源
車両運搬具	日産キャラバン（10人乗リフト付） 障がい者地域活動支援センター送迎	4,206,116	事業運営費積立金
	スバルプレオ（軽乗用車） ボランティアセンター連絡・送迎	964,000	大町ロータリー クラブより寄贈
器具・備品	ボランティア活動用複合複写機	577,500	ボランティア基金
	会計・データ共有サーバー	1,522,500	事業運営費積立金
ソフトウェア	新会計基準対応会計システム	1,218,000	//
	情報共有用グループウェア	192,150	//
合 計		8,680,266	

【評価】

- 定期監査では、法人会計のほか、事務局を預かっている諸団体の会計処理や日常生活自立支援事業における利用者の金銭管理についても監査いただき、いずれも適正に処理されていることを確認いただいた。
- 積立金については、前年度までの経過や監事の指摘内容等をもとに議論を深め、目的別の分割設置と目標額の設定、年度末における余剰金の積立ルール化を行うことができた。
- 積立金の分割設置により、地域福祉活動及び生活支援活動に財源不足が生じた場合の補填財源として位置付けることができたが、自主事業の経営状況によっては積立金残高が減少する可能性もあるため、会費収入と補助金の安定的確保に取り組んでいく必要がある。

◆ 新会計基準への移行対応

平成23年7月に厚生労働省から新たな会計基準が示され、平成24年度から3年以内に移行することが義務付けられていることから、各分野の職員9名で構成する移行作業チームを組織して検討し、新会計基準に対応するシステムの選定と経理規程の改正を行なった。

項 目	実施結果・内容
新会計基準対応システムの選定	<p>現行の会計システム提供元より新会計基準に対応しない旨の連絡を受け、新会計基準に対応した6つの会計システムについて、7月中にデモンストレーションを依頼し、作業チームによる評価を行なった。評価は「整合性」「信頼性」「操作性」「機能性」について、移行作業チーム9名が採点し、評価項目ごとの最高点数と最低点数を除いた平均点で比較した。</p> <p>併せて、同一仕様により、システム本体、導入設置費、操作研修費、5年間の保守料の見積を徴取した。</p> <p>評価結果の上位2システムは評価点数が拮抗していたことから、見積額の低かった富士通製の「WINCARE-ES 福祉会計システム」に決定した。新会計システムは11月に導入し、新会計基準に準拠した平成26年度予算を編成した。</p>
経理規程の改正	<p>平成24年9月に全国社会福祉協議会から示された「社協モデル経理規程」をベースに、本会の実情に合わせて条文を規定した経理規程の全部改正案を、3月の理事会・評議員会に提出し、議決された。</p>

【評価】

- 移行作業チームを組織し、検討しながら作業を進めたことで、メンバー間で新会計基準への理解を深めることができた。
- 経理規程の改正では、経理組織を強化するとともに、実情に合った内容を規定することができた。
- 次年度からが本格運用となることから、選定した会計システムを最大限に活用するとともに、各担当者に経理規程の内容についての周知を徹底していく必要がある。

◆ 福祉人材の確保

研修機会の確保を通じて、職員の資質向上に努めるとともに、福利厚生事業の実施や処遇改善手当の支給を通じて、福祉人材の確保に努めた。

また、独自の給与体系整備に向け、長野労働局のコンサルティングを受けたほか、給与規程と育児・介護休業規程の一部を改正した。

① 職員研修機会の確保と実施

各種研修会・説明会等への参加を通じて、職員の資質向上に努めた。

期 日	内 容	備 考
5月24日（金）	福祉職員生涯研修（5/24、6/20の全2回、デイこすもす1名）	浅間温泉文化センター
5月26日（日）	～27日（月）大町市民生児童委員協議会視察研修（総務2名）	広島方面
6月 7日（火）	先進地就労施設見学（多機能型利用者9名、職員6名）	信州そば工房「きすな」
6月 6日（木）	施設長・管理者・職員研修会（デイこすもす1名）	長野市ホテル信濃路
6月11日（火）	認知症介護研修応用コース（デイこすもす1名）	県社会福祉総合センター
〃	苦情対応実践講座Ⅰ（スクラム1名）	ホクト文化ホール
6月25日（火）	普通救命講習開催（デイこすもす15名）	総合福祉センター
6月26日（水）	福祉職員生涯研修（6/26・27の全2回、デイこすもす2名）	キッセイ文化ホール

6月27日(木)	ケアにおける楽な体勢での介護技術(訪問介護25名)	総合福祉センター
〃	老人ホーム・デイサービスセンター職員研修会(デ イみさか1名、デイみあさ2名)	長野市ホテル信濃路
7月 6日(土)	きょうされんふざん製造講習会(多機能型1名)	神奈川県川崎市
7月 6日(土)	国土交通省認定移送サービス運転者講習(7/6・13 の全2回、総務1名、美麻地域福祉センター1名)	塩尻運転免許センター
7月11日(木)	～12日(金)第50回関東ブロック都市町村社協合同 研究協議会(総務1名)	茨城県つくば市
7月13日(土)	～14日(日)セカンドステップ研修会(スクラム1名、 療育専門員1名)	市総合福祉センター
7月19日(金)	障害者相談支援従事者初任研修(7/19・24・25、 8/8・9の全5回、障害・児童福祉係1名)	キッセイ文化ホール、 上伊那郡宮田村ほか
7月24日(水)	安全運転管理者法定講習(総務3名)	サンアルプス大町
7月25日(木)	介護支援専門員更新研修(7/25・26、8/30の全3 回、居宅介護支援事業所1名)	JA長野県総合研修所
8月20日(火)	苦情対応実践講座Ⅱ(スクラム1名)	長野県自治会館
8月22日(木)	苦情対応実践講座Ⅱ(スクラム1名)	浅間温泉文化センター
8月26日(月)	更年期体操・腰痛体操開催(訪問介護25名)	総合福祉センター
8月29日(木)	退職積立基金に係る説明会(総務1名)	塩尻総合文化センター
9月 4日(月)	食品衛生責任者養成講習(多機能型1名)	サンアルプス大町
9月19日(木)	認知症高齢者の理解(訪問介護10名)	安曇総合病院
9月20日(金)	福祉権利擁護セミナー(総務4名)	浅間温泉文化センター
9月25日(水)	主任介護支援専門員研修(9/25・26・27、10/29・30、 11/20・21、12/13、1/15・16・28の全11回、居宅 介護支援事業所1名)	県社会福祉総合センター、 浅間温泉文化センター
9月27日(金)	県内社協トップセミナー(会長ほか4名)	キッセイ文化ホール
10月 2日(水)	健康セミナー「職場のメンタルヘルス対策」(総務1名)	キッセイ文化ホール
10月19日(土)	クラフトピクニック(ハーモニー1名)	松本市あがたの森公園
10月22日(火)	普通救命講習開催(10/22・24 訪問介護33名)	総合福祉センター
〃	認知症介護研修応用コース(デイこすもす1名)	浅間温泉文化センター
11月20日(水)	苦情対応システム研修会(総務1名、多機能型1名)	浅間温泉文化センター
11月21日(木)	感染症予防対策研修会開催(訪問介護22名)	総合福祉センター
11月26日(火)	日常生活自立支援事業生活支援員研修会(総務5名)	堀金支所
12月14日(土)	～15日(日)地域で暮らそうフォーラム(スクラム2名)	松代ロイヤルホテル
12月18日(水)	～19日(木)生涯研修リーダー課程(スクラム1名)	ホテル信濃路
1月17日(金)	調理実習研修会開催(訪問介護22名)	総合福祉センター
1月21日(火)	認知症介護研修基礎コース(デイこすもす1名)	浅間温泉文化センター
1月23日(木)	大北・安曇野地区労務管理セミナー(総務1名)	アブロード
2月 2日(日)	発達障害チャリティーセミナー(スクラム1名)	信州大学旭総合研究棟
2月 7日(金)	社協経理及び運営に関する研修会(総務1名)	塩尻総合文化センター
2月12日(水)	社協職員災害対応研修(総務1名)	県社会福祉総合センター
2月18日(火)	糖尿病食知識習得研修①開催(訪問介護15名)	市中央保健センター
2月16日(日)	全国障害者生活支援セミナー(スクラム1名)	東京都新宿区
2月27日(木)	糖尿病食知識習得研修②開催(訪問介護14名)	市中央保健センター
3月 7日(金)	精神保健福祉セミナー(スクラム1名)	ホテル翔峰(松本市)
3月 8日(土)	福祉専門研修(スクラム1名)	松本市南部公民館
3月13日(木)	精神障がい者の理解(訪問介護24名)	

※ 太字は内部研修

② 職場の安全衛生向上の取り組み

職場の事故防止等の安全確保と、健康診断や産業医による職場巡視を行い、衛生管理に努めた。

● 安全衛生委員会の開催状況

開催日	内 容
4月16日（火）	① 講話「動脈硬化は良くなるの…」 保健師 宮崎氏 ② 自動車運転登録申請書の提出について ③ 平成25年度産業医の職場巡視日程について
5月14日（火）	① 講話「あなたの腎臓は大丈夫…」 保健師 宮崎氏
6月28日（金） （総会）	① 平成24年度安全衛生委員会事業報告について ② 平成25年度安全衛生委員会事業計画について
7月16日（火）	① 講和「熱中症対策について…」 保健師 宮崎氏 ② 職員の傷病による休職・復職について ③ 夏の交通安全やまびこ運動について
8月12日（月）	① 安全運転管理者講習会の報告について ② 業務用車両への第三者の同乗について ③ 業務用車両の運行管理について
9月17日（火）	① 講和「生活習慣病を防ぐ食の採り方について」 管理栄養士 鈴木氏 ② 秋の交通安全週間について ③ 平成25年度県下一斉ノーマイカー通勤ウィークの実施について
10月15日（火）	① 講和「あなたは認知症になりますか！！」 保健師 宮崎氏
12月17日（火）	① 講和「ヒートショックについて」 保健師 藤巻氏 ② 年末の交通安全運動について
2月18日（火）	① 講和「あなたは第3の脂肪がありますか？」 保健師 宮崎氏

● 定期健康診断の実施状況

実施方法	個別健診	集団健診
対象者	35歳以上で健康保険に加入している職員	週労働時間20H以上で、個別健診の対象とならない職員
実施日	11～3月の各指定予約日	8月2日（金）
実施場所	大町市総合福祉センター	市立大町総合病院
受診者数	89名	26名

● 産業医の職場巡視の実績

事業場	大町市総合福祉センター	八坂総合福祉センター	美麻総合福祉センター	デパートセンター ひなたぼっこ
実施日	7/20、2/18	10/15、1/21	8/20、12/17	12/10

③ 非正規職員への処遇改善手当の支給

非正規職員を対象に、勤続手当及び処遇改善手当を支給した。

名 称	勤続手当	処遇改善手当
算定方法	4/1現在の勤続年数に応じた月額（1年：250円、2年：500円、3年：1,000円、以後1年につき1,000円ずつ加算、最高8,000円）を支給	介護報酬及び自立支援給付費の半期ごとの処遇改善加算総額の8割を、対象職員の労働時間に応じて配分（6月：75円/H、12月：81円/H）
支給対象者	勤続1年以上の嘱託・臨時・非常勤職員	週所定労働時間が20時間以上の嘱託・臨時・非常勤・登録職員
支給時期	毎月	6月・12月
支給実績	2,724,380円	9,757,511円

④ 職場委員会による職場環境改善の検討、次世代育成支援行動計画（第2回）の策定

各事業所から選出された職場委員による職場委員会を全3回開催し、各職場の労働環境等について情報交換するとともに、職場環境改善のための意見を徴取した。

また、前年度に実施した「仕事と家庭の両立に関するアンケート」の結果を踏まえ、次世代育成支援行動計画（第2回）を策定し、長野労働局への届出を行なった。

● 職場委員会の開催内容

回数	開催日	内 容
第1回	5月31日	① 職場代表者の役割と締結すべき労使協定について ② 職場代表者の選出について ③ 産業医の職場巡視について ④ やまびこまつり社協連への一般参加者募集について
第2回	9月27日	① 職員給与規程の一部改正について ② 育児・介護休業に関する規則の一部改正について ③ 次世代育成支援行動計画（第2回）の策定について ④ やまびこまつり社協連参加者アンケートの結果について ⑤ 事業場外労働のみなし労働時間制について
第3回	3月28日	① 社会保険及び所得税等における被扶養者の届出について ② 平成26年度職場委員の選出について

● 次世代育成支援行動計画（第2回）の内容

計画期間	平成 26 年度～平成 27 年度
目標	目標① 年次有給休暇取得日数を平均 0.5 日増加（職員ごとの取得率の評価・分析） 目標② 所定外労働を月平均 3 時間未満に（ノー残業ダイの励行、業務の効率化） 目標③ 職員相互が理解し合い、明るく働きやすい職場環境に（交流事業の実施ほか）

⑤ 独自の給与体系整備に向けた調査・検討

長野労働局より、パートタイム労働者の均等待遇の確認のため、職務分析・評価に関するコンサルティングの申入れがあり、計5回の訪問指導を受けながら職務の分析・評価を実施した。

回数	訪問日	内 容
第1回	6月3日	職種及び職務内容の整理
第2回	7月12日	職務説明書の作成
第3回	8月9日	職務評価の実施
第4回	9月3日	均等、均衡待遇のチェック
第5回	10月25日	職務分析報告書提出、考察

⑥ 給与規程及び育児・介護休業規程の一部改正

大町労働基準監督署より超過勤務手当の計算方法に関する是正勧告があり、給与規程の一部を改正した。（超過勤務手当の算定基礎賃金に、寒冷地手当・勤続手当等を含めるように改正）

また、長野労働局より、介護休業の取得要件、育児のための所定外労働の免除及び労使協定が必要な事項についての助言があり、育児・介護休業規程の一部を改正した。

【評価】

- 職員研修は、外部研修と内部研修を実施し、職員の資質向上を図ることができたが、今後は研修で得た知識・技術を他の事業所にも広めるような取り組みが必要である。
- 職場委員会は3回のみで開催に留まったが、職場環境の改善に向けた検討を行い、次世代育成支援行動計画（第2回）を策定することができた。
- 処遇改善手当の支給は、非正規職員の意欲向上に一定の効果があったと思われるが、次年度は長野労働局による職務分析・評価をベースに、独自の給与体系を整備していきたい。

(2) 会員組織の強化

一般会員（一世帯あたり年額600円）8,015戸、特別会員（一人あたり年額3,000円）785名を目標に、会員の拡大のための広報・啓発活動や会費納入方法の改善に取り組んだ。

会費は、ボランティアセンターの運営や、地区社協・小地域福祉ネットワーク活動の助成等の地域福祉の推進活動に充当した。

項 目	実施結果・内容
会費の使途についての わかり易い広報	○一般会費 社協おおまち4月号と自治会配布チラシに会費の使途について掲載し、協力依頼を行なった。 ○特別会費 社協おおまち8月号と会員チラシを配布し、特別会費の納入と活用方法を掲載した。また、社協おおまち12月号に特別会員名簿を掲載した。
地域福祉関係者との連 携による会員募集	○一般会費 4月に全自治会長へ納入依頼文とちらしによる協力依頼 ○特別会費 市民生児童委員協議会の役員会及び全体会において、収納協力依頼を行なった。
会費納入方法改善の検 討	○総合納入窓口開設（一般会費） 5月31日（金）に市役所1階市民ホールに総合納入窓口を開設（開設時間を18：30まで延長） ○納入窓口増設（一般会費） 各地区（平・常盤・社）公民館に納入窓口の開設依頼を行なった。

● 年度別会員別会費集計表（過去5年間）

（単位：円）

年度	一般会員（一般会費）			特別会員（特別会費）		
	世帯数	金 額	前年比	人数	金 額	前年比
H21	8,151	4,890,400	101.9 %	678	2,034,000	105.8 %
H22	7,974	4,784,400	97.8 %	748	2,244,000	110.3 %
H23	7,987	4,792,200	100.2 %	754	2,262,000	100.8 %
H24	7,859	4,715,400	98.4 %	771	2,313,000	102.3 %
H25	7,744	4,646,400	98.5 %	766	2,298,000	99.4 %

【評価】

- 市役所での総合納入窓口開設では、1カ所で各種会費が納入できるため、利便性が感じられた。さらに、総合納入開設の周知を図り、納入の負担軽減に努めたい。
- 今年度、新たに平、常盤、社公民館に納入窓口を開設したところ、地区内の約40%の自治会が各公民館で納入いただいた。
- 自治会加入率の低下により、一般会費は減少傾向にある。
- 会費の充当事業への理解と周知を図りながら、会員の増加に努めていきたい。
- 新規会員確保のため、企業や福祉施設等法人会員の依頼について検討が必要である。

(3) 赤い羽根共同募金運動の推進

赤い羽根共同募金は、各都道府県に設置されている共同募金会が実施主体であり、その下部組織として市町村ごとに共同募金会市町村支会が組織され、各地域での募金活動を実施している。

市町村支会は、地域住民により組織され、その事務局は公平中立性の高い組織として、全国的にその大半は市町村社協が担っている。

本会についても、長野県共同募金会大町市支会の事務局を運営し、募金活動を実施した。

① 共同募金会大町市支会が行う募金活動への協力

項 目	実施結果・内容
募金目標額を達成する活動	<p>県共同募金会からの事務費強化費を財源に、募金資材を作成購入し、募金活動を実施した。</p> <p>○卓上キャラクター募金箱 市内事業所及びコンビニエンスストアに協力いただき設置した。</p> <p>○啓発用ポケットティッシュの作成 街頭募金時に配布し、募金啓発に活用した。</p> <p>結果、目標額達成となりまた、約17年ぶりに前年度の実績を上回る募金協力が得られた。</p>
街頭募金の実施	<p>市内大型店2カ所及び、市民ふれあい広場会場内にて実施。実施場所の学区内小学校へ協力を要請し、当日児童の協力により実施。</p> <p>○市民ふれあい広場・・・北小学校児童 ○ザ・ビック大町店・・・西小学校児童 ○ベイシア大町店・・・南小学校児童</p>
広報・啓発活動の実施	<p>社協報に共同募金が何に活用されているのかを掲載し、開かれた共同募金となるよう情報提供を行った。</p> <p>○社協報第166号（10/1）・・・募金運動開始 ○社協報第168号（2/1）・・・募金お礼（活用先を掲載）</p>
配分金事業の周知・啓発	<p>地区分会が自治会へ募金協力を依頼する際、募金活用先及び活用事業内容を掲載した依頼文書を発行した。</p> <p>また、自治会未加入の方については、行政が行う戸別発送広報紙に合わせ、募金チラシを発送した。</p>



啓発用ポケットティッシュ

● 募金実績の推移

(単位:万円)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
募金額（送金額）	1,039	1,022	993	975	979



街頭募金運動の様子（10/6 ザ・ビック大町店）

● 平成 25 年度共同募金配分金の内訳

(単位：円)

配分先		高齢者 福祉活動	障害児・者 福祉活動	児童・青少年 福祉活動	住民全般 福祉活動	合 計
ア 地区社協	大町地区	558,703	50,000	285,000	640,000	1,533,703
	平地区	281,000	60,000	200,000	527,514	1,068,514
	常盤地区	526,711	40,000	580,000	270,000	1,416,711
	社地区	457,600	0	60,000	30,000	547,600
	八坂地区	200,000	15,000	40,000	77,727	332,727
	美麻地区	62,000	20,000	45,000	26,692	153,692
イ：市社協		364,616	287,000	0	2,273,876	2,925,492
合 計		2,450,630	472,000	1,210,000	3,845,809	7,978,439

● 平成 25 年度市社協配分金事業の内訳

(単位：円)

事業名	配分金額	事業名	配分金額
福祉団体助成事業	330,000	希望の旅事業	112,323
市民ふれあい広場開催事業	500,000	福祉輸送サービス事業	539,293
社協報発行事業	950,492	心配ごと相談事業	144,200
火災見舞金事業	0	ボランティアニュース発行事業	349,184
合 計		2,925,492	

② 組織改変への対応

県共同募金会並びに県内市町村共同募金会の組織改変に関する情報収集にあたった。また、組織改変に関する勉強会を中信地区の市支会担当者で実施。

項 目	実施結果・内容
組織改変に関する勉強会	<p>中信地区の市支会担当者へ呼びかけ、県共同募金会とともに組織改変に関する勉強会並びに、情報交換会を実施した。</p> <p>○開催日 6月18日（火）</p> <p>○場所 松本市社協</p> <p>○参加者 ・松本市 ・塩尻市 ・安曇野市 ・大町市 ・県共同募金会</p>

【評価】

○目標額の未達成や前年実績を下回る結果に慣れるのではなく、できる限りの協力依頼をと、年末の街頭募金の実施、コンビニエンスストアへの募金箱設置を行なった結果、目標額の達成と前年実績を上回る募金実績となった。

○街頭募金への児童協力については、福祉教育的な要素もあり、良い啓発活動となった。

○組織改変については、県内でもスムーズに進行していない現状がある。引き続き県内市町村の状況を確認しながら、改変への取り組みを熟慮したい。

（４）苦情解決（第三者委員）機能の充実

社協の各事業所（13 事業所）に苦情受付担当者を配置し、利用者や一般市民へ周知のうえ、福祉サービス利用にあたっての苦情の申し出などに対応した。その他、苦情解決責任者と第三者委員（3名）を置き、社会性や客観性を確保しつつ、公明な苦情解決にあたるよう努めた。

【評価】

○苦情の受付態勢は整ったものの、受付件数は数件に留まっている。日常業務における市民や利用者の声を記録し、宝物として扱う雰囲気づくりに努める必要がある。

2. 災害時支援態勢の強化

大北ブロック社協、大町市、県社協、青年会議所等関係機関相互の連携態勢について、機会を捉えて情報交換や課題提起を行なった。

項 目	実施結果・内容
大北ブロック社協における相互支援態勢づくり	県内社協災害時相互応援協定に基づき、白馬村での災害ボランティアセンター講座に管内社協職員が参加し、日頃からの顔の見える連携づくりに努めた。
大町市や関係機関との連携による支援態勢づくり	10月25日開催の市福祉課との懇談会において、福祉避難所と災害ボランティアセンターとの併設運営は難しいとの課題提起を行なった。 2月28日開催のブロック代表社協会議は、日本青年会議所長野ブロック協議会との合同会議として、県社協とJC（青年会議所）とで締結されている災害時応援協定の内容等について情報交換を行なった。

【評価】

- 白馬村で開催の災害ボランティアセンター講座では、訓練を通じて有事の際の連携態勢等を確認することができた。
- 本会が指定管理を受任している大町市総合福祉センターは、福祉避難所に指定されているが、地域防災計画では、本会が災害ボランティアセンターの運営も行うことが明記されていることから、双方の設置場所や運営態勢について、大町市と協議していく必要がある。
- 青年会議所とは、被災地支援のボランティアバスツアーを共催した関わりもあり、今後とも連携を図っていきたい。



災害ボランティアセンター講座の様子（12/6 白馬村社協）

3. 公益事業の推進（指定管理施設の管理運営）

大町市から指定管理の委任を受けて3施設の管理運営を行った。3施設とも高齢者、障がい者、児童、地域住民等が幅広く利用できる地域福祉の拠点として適切な施設管理と運営に努めた。

（１）大町市総合福祉センター管理運営事業

項 目	実施結果・内容
施設の利用状況	<p>【公衆浴場】（開設日数：310日） ○利用実績：31,752人（平均102.4人／日）</p> <p>【会議室等貸館】（開設日数：358日） ○利用実績：2,268団体（平均6.3団体／日） 19,979人（平均55.8人／日）</p>
良質な施設サービスの提供	<p>利用者の声を反映して、以下の取り組みを実施したほか、施設内の清掃の徹底と不具合個所の迅速な修繕により、快適な利用環境の提供に努めた。</p> <p>○3階フロアのテレビのNHK衛星放送受信契約 ○公衆浴場の鏡の更新</p>
適切な施設管理の実施	<p>会議室等貸館の減免基準について、10月25日開催の大町市福祉課との事務協議で課題提起した結果、その後の法規審査委員会で設置条例の施行規則が一部改正され、減免基準が明確になった。また、交換部品の提供期間が満了した入浴券売機の更新について、及び電話設備の光回線化について、それぞれ大町市と協議した結果、いずれも今後の計画的な修繕項目として挙げ、年度中の対応は見送ることとなった。</p>
利用者ニーズの把握と提供サービスの適正化	<p>意見箱「利用者の声」の設置や、運営懇話会の開催により、利用者ニーズの把握と提供サービスの改善に努めた。</p>
利用者の増加策の実施	<p>前年度に引き続き、年末年始の3日間公衆浴場を臨時営業した。 ○12/29・30（10:00～17:00）、1/3（13:00～17:00） ○利用実績：151人（前年度267人）</p>
増築に伴う施設の用途変更	<p>中庭に障がい者の日中活動スペースが増築されたことに伴い、旧子育て支援センター室に大北圏域障害者総合支援センター（スクラム・ネット）の事務所を移転し、併せて長野県社協が実施する生活困窮者の自立支援窓口を設置した。 なお、旧スクラム・ネット事務所スペースについては、両業務の相談スペースとして活用することとした。</p>

● 公衆浴場利用者の推移

（単位：人）

利用者区分	H21	H22	H23	H24	H25	前年度比
一 般	7,793	8,208	7,600	8,943	8,822	98.6%
65歳以上	17,908	16,726	17,159	18,290	19,099	104.4%
障がい者	2,455	2,291	2,481	1,905	2,210	116.0%
小中学生	448	650	869	1,021	1,306	127.9%
優待券	—	—	2,055	1,873	315	16.8%
合 計	28,604	27,875	30,164	32,032	31,752	99.1%
優待券以外	28,604	27,875	28,109	30,159	31,437	104.2%
収入額（千円）	7,056	6,979	6,974	7,252	7,173	98.9%

● 貸館利用団体数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
貸館利用団体数（団体）	2,043	2,013	2,267	2,260	2,268
貸館利用人数（人）	22,731	19,627	19,545	20,554	19,979

【評価】

- 公衆浴場の利用は、ポイントカードの廃止による優待券利用の減少を除けば、過去5年間で最高の実績であったが、回数券の利用増により収入額は減少した。
- 会議室等の貸館利用は、引き続き高い水準で推移している。また、懸案であった使用料の減免基準については、課題提起の結果、設置条例の施行規則が一部改正され、明確になった。
- 次年度以降、広報紙・ホームページ等による周知や、公衆浴場の無料開放の企画等により、更なる利用増加策を実施していきたい。

（２）八坂総合福祉センター

項 目	実施結果・内容
施設の利用状況	開設日数 256日 利用者数 3,923人 集客数 360人
適切な維持管理の実施	設備、備品等が経過年数に達し、特に水回り関係で劣化、または老朽化があり修繕・交換等により適切な維持管理に努めた。

【評価】

- 当初指定管理経費内で維持管理ができるよう、経費の節減に努めた。
- デイサービスは、市内等送迎可能な範囲の利用者を受け入れ、施設の安定稼働に努めた。
- 自主事業として八坂支所との共催で高齢者サロン（19か所）を実施し、デイサービス等の利用増に繋がった。

（３）美麻総合福祉センター

項 目	実施結果・内容
施設の利用状況	開設日数 255日 利用者数 4,105人 集客数 1,009人（センター利用者）
適切な維持管理の実施	市との協議のもと、計画的に設備等の修繕を実施した。 通常利用のない部屋の暖房管理等こまめに管理し、省エネに努めた。

【評価】

- 子供から大人まで幅広い世代の方に利用いただけた。
- ボランティアや市民に利用いただけるよう地区の各種事業や元気塾を開催し、宣伝普及、有効活用を模索した。
- 医療機関が併設しているため、消毒等で感染予防に注意した。

Ⅱ お互いさまのまちづくり

1. ご近所支え合い事業

日頃からの地域住民相互の支え合いが災害時への大きな備えになることから、防災意識の向上と住民自らが地域を知り、地域の課題に向き合うことを意図し、本年度は「災害時住民支え合いマップ作成マニュアル」を作成して推進した。

項 目	実施結果・内容
支え合いマップづくりの推進、作成支援	支え合いマップ作成マニュアルを活用した推進。 ○常盤地区清水自治会をモデル地区に指定し作成。
支え合いマップ作成研修会の開催	・6月～11月において、計4回の説明会を開催し作成。 ○市連合自治会総会においてマニュアルの周知並びに作成推進。 ・11月13日（水） 2月13日（木） ○自治会での支え合いマップ作成並びに説明会の開催 ・二重自治会 ・木崎自治会 ・宮本自治会 ・東町自治会

● マップ作成自治会数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
マップ作成済自治会数	3	3	11	14	15

【評価】

○モデル地区での作成で浮き彫りとなった課題は、個人情報と地域防災のどちらが優先されるか。個人情報を重視した場合、マップのような地域の支え合いの取り組みは困難である。引き続き、誰のためのマップなのかを周知し推進していきたい。
○年末及び年始での連合自治会総会において説明会を実施した結果、数自治会より説明会並びに作成の依頼があった。新年度においては、地区単位で自治会長や自主防災会会長を対象とした説明会を地区社協と連携する中で実施していきたい。

2. ふれあいのまちづくり事業

（1）小地域福祉ネットワーク活動の推進

誰もが安心して暮らしていける地域づくりには、公的サービスの充実のみならず、地域住民が主体となって取り組むことが必要であり、本事業では地域の支え合い・ふれあいのネットワーク構築に努めた。

項 目	実施結果・内容
ネットワーク交流会の開催による情報共有	○担い手不足により、会の運営継続が困難との声があり、市ボランティア交流研究集会では、一時休会状態であった「堀六日町ネットワーク六寿会」が再開に至った経過について説明。アンケートからも好評を得た。 ○広報紙等により、ネットワークの内容について周知に努めた。
新規設立に向けた地区説明会の実施	○1自治会より新規設立の相談があり、役員を中心に説明を実施。 結果新規設立となる。 (6/1設立八坂地区大平自治会【名称】大平地区健康づくりクラブ寿会)

● ネットワーク数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
ネットワーク数	39	40	41	42	43

【評価】

- 担い手（後継者）不足とともに、地域によっては活動そのものへの理解が得られにくい状況。結果、現在の担い手が高齢等の理由でリタイヤした場合、地域でその活動を引き継いでくれる人がいない状況。この話を受け、広報による地域の連携についての周知啓発をタイムリーに実施できた。
- 今後高齢化が進行している中で、すでに核家族化による多世代交流がない地域において、災害等有事の際には地域のつながりが大切。支え合いマップと連動した小地域の大切さを訴えていきたい。

（２）地区社協連携強化事業

地区社協はそれぞれの地域で地域福祉活動を行う住民団体であり、共に地域福祉を推進するパートナーとして、連携強化に努めた。

項 目	実施結果・内容
地区社協連絡協議会の開催	5月16日（木）開催。 ○支え合いマップ作成マニュアルの説明及び推進協力を依頼した。 ○小地域福祉ネットワークの今後の活動展開について意見交換した。 ○その他市社協事業の説明、意見交換を行った。
地域の実情に応じた新たな福祉活動の展開	意見交換の中で、地区社協役員に対して、より社協事業の理解を深める意味で、研修会の開催要望が出され、次年度検討することとした。

● 地区社協事務局の運営状況

3地区（大町地区、八坂地区、美麻地区）社協の事務局として地区社協事業の運営を支援した。（※平地区、常盤地区、社地区は、各公民館が事務局）

項 目	実施結果・内容
大町地区社協	地域福祉事業として、共同募金配分金、市社協助成金を財源とした各種事業を実施した。 ○高齢者に関わる事業 ・ひとり暮らし高齢者初夏の日帰りバス旅行（新潟県寺泊方面 116 名参加） ・ふれあいいきいきサロンの実施（年 50 回実施） ・大町地区敬老会支援 ・単位老人クラブを対象とした地域実践活動への助成 2 地区（神栄町、栄町） ・単位老人クラブを対象とした運動広場整備活動への助成 1 地区（宮田町） ○障がい児・者に関わる事業 ・交流会の開催（障がいスポーツ「ポッチャ」トーナメント大会 58 名参加） ○子どもに関わる事業 ・三世代交流事業 年 3 回 ・児童センターまつり共催 ・単位子ども会を対象とした地域実践活動への助成 11 地区（三日町、山田・北山田町、東若宮町、白塩町、北原町、十日町、宮田町、中原町、大原町、大新田町、南原町） ・単位子ども会を対象とした運動広場整備等への助成 1 地区（北原町） ○住民全般に関わる事業 ・小地域福祉ネットワークへの補助（23 地区） ・広報紙発行（年 3 回）

八坂地区社協	<p>共同募金配分金と地区社協会費、市社協助成金を財源として、各種事業を実施した。</p> <p>○高齢者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンの実施（5～3月19会場にて56回実施。延319名参加） <p>○地域福祉、福祉教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八坂小中学校福祉普及校事業助成 <ul style="list-style-type: none"> 小学校（花苗・花壇づくり、老人スポーツ大会協力ほか） 中学校（ガードレール清掃等） ・ボランティア団体及び各種団体への助成 ・みさか納涼祭主催（三世代交流）200名参加 <p>○地域団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八坂地区老人スポーツ大会への協力（7/4開催。150名参加） ・八坂地区敬老会への協力（10/3開催。98名参加） <p>○住民全般に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙発行（年2回）
美麻地区社協	<p>共同募金配分金や地区社協会費、市社協補助金等を財源として各種事業を企画実施した。</p> <p>○高齢者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニあそびり（軽体操・レクリエーション）年32回/延513名 ・買い物ツアー 年6回/延22名 ・一人暮らしのみなさん集まろう会 年1回/23名 ・高齢者会食会 年1回/33名 ・梨嶺美容院 年6回/延38名 ・敬老会への助成 <p>○障がい者に関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あそびり教室 年3回/延24名 <p>○子どもに関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お手伝いし隊 春夏休み8回/延82名 ・社会福祉普及校補助 ・子ども会育成会助成 <p>○地域福祉・ボランティアに関わる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロン支援（各地区で開催） ・うたごえ喫茶の開催 4地区/延40名 ・美麻ふれあいまつり 115名 ・災害時住民支え合いマップの推進 地区で取組 ・広報誌の発行 年4回 ・みあさサポーター養成講座の開催（市包括と共催） 30名参加

【評価】

- 各地区社協の事業計画に基づき、事業を実施できた。
- 地区社協は、住民組織の位置付けであるが、事務局中心での事業運営となっている。地域住民参加による事業運営について検討が必要。
- 新しいニーズに対する活動を検討していくことが必要。住民ニーズの把握方法が課題。
- より多くの住民に関わりを持っていただきながら、地域のニーズをどう掘り起こしていくかが課題。

(3) 市民ふれあい広場の開催

子どもからお年よりまで、年齢や障がい有無に関わらず、すべての住民が一堂に会し、「出会い、ふれあい、共感」を感じてふれあうことを目的に、平成25年10月5日（土）に市文化会館で市民ふれあい広場2013を開催した。

運営にあたっては実行委員会を組織し、本会はその事務局として、また共催者の一員として、事業活動に参加した。

項 目	実施結果・内容
参加団体による実行委員会の取り組み	5月20日（月） 幹事会開催 7月 9日（火） 第1回実行委員会開催 9月13日（金） 第2回実行委員会開催
ステージ発表	○開会前イベント おらほのラジオ体操 8:50～9:00 ○オープニングセレモニー（表彰等） 9:00～9:30 ○ふれあいステージ（8団体） 9:40～14:00 ひまわり・たんぽぽ・すずらんコンサート、大町北高吹奏楽部演奏、フィリピンダンスチーム「サンパギータ」、黒部陸「太鼓の演奏」、大町東小「絆コンサート」、南京玉すだれ、大町おどり、SANBAの会「Letふれあいエクササイズ」
事業の企画・運営を通じた参加団体同士の連携強化	東北復興支援イベントとして参加団体に協力を呼びかけ、以下の内容を実施した。 ○開会前イベントとして、おらほのラジオ体操を会場参集者で実施。 ○33ブースに義援金箱を設置（240,030円の義援金が集まる。） ○市社協による「今が旬！岩手県大船渡さんままつりin大町」 ○東日本大震災のその後の様子を伝える写真展示 ○市民生児童委員協議会協力による大船渡市特産品販売

● 参加団体数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
参加団体数	54	56	55	60	59

● 参加団体名簿（順不同） 59団体 53コーナー

団体名（出展内容）	団体名（出展内容）
①市身体障害者福祉協会（フランクフルト）	①9大町保健福祉事務所（おでかけ保健所、献血）
②特別養護老人ホームカトレヤ（わたあめ）	②0大町市陶芸の家（陶芸作品販売）
③日赤奉仕団（炊き出し）	③1がんばりやさん（手作りパン販売）
④民生児童委員協議会（大船渡市特産品販売）	④2ゆずり葉の会（お茶ののんでって亭）
⑤遺族会（おもち）	⑤388ボランティア（お茶席）
⑥宗水会（お茶席 抹茶提供）	⑥4市健康づくり推進委員会（知って得するコーナー）
⑦市水道課（水源別麦茶飲み比べ、給水車展示）	⑦5市食生活改善推進協議会（野菜たっぷりの食卓）
⑧セルフビルドの会（おもちゃ修理）	⑧6養護老人ホーム鹿島荘（輪投げコーナー）
⑨安曇野アイターン友愛会（アイターン相談）	⑨7ハーブの風作業所（自主製品販売）
⑩大北建設労働組合（包丁研磨サービスほか）	⑩8くわの木（自主製品販売）
⑪市母子寡婦福祉会（日用品バザーほか）	⑪9ホットネットひだまり（八坂産野菜販売）
⑫ボラボラクラブ（ブラバンキーホルダー）	⑫0パン工房わたぼうし（パンの販売）
⑬点訳ほたるの会（ボランティア体験）	⑬1男女共同参画ミューター大町地区（パネル展示他）
⑭朗読グループかっこう（ボランティア体験）	⑭2社協障害福祉サービス事業所（自主製品販売他）
⑮ペガサス（ボランティア体験）	⑮3NPO法人えべや大町（自主製品販売）
⑯黒部陸（神輿展示・ふれあいステージ）	⑯4池田町ハーブセンター（大判焼き実演販売）
⑰救護施設れんげ荘（入所者作品展示販売）	⑰5大町市婦人会（日用品バザー）
⑱自動車整備振興会大町支部（マイカー点検）	⑱6市社会福祉協議会（大船渡さんままつりin大町）

団体名（出展内容）	団体名（出展内容）
③⑦市社会福祉協議会（不整地車いす試乗会）	④⑨市消費生活センター（悪徳商法に気を付けて）
③⑧ときわ農産物直売所かたくり（農産物の販売）	⑤⑩市民課（交通事故防止）
③⑨信濃大町つけもの屋（漬物販売）	⑤⑪市くらしの会（再生紙利用製品展示他）
④⑩大町市を愛する女性の会（映画上映）	⑤⑫市手をつなぐ育成会（パネル展示）
④⑪大町市映像文化財を残す会（自主制作映画上映）	⑤⑬市立大町総合病院（ミニ検診・ぽんぽんつりほか）
④⑫大北歯科医師会（無料歯科検診コーナー）	⑤⑭大町北高等学校吹奏楽部（ふれあいステージ）
④⑬市生活環境課（環境保全啓発パネル展他）	⑤⑮サンバギター（ふれあいステージ）
④⑭市情報交通課（市ケーブルテレビの紹介）	⑤⑯大町おどり（ふれあいステージ）
④⑮市老人クラブ連合会（わら工芸作品展示販売）	⑤⑰SANBAの会（ふれあいステージ）
④⑯市子育て支援課（わんぱく広場）	⑤⑱大町東小学校（ふれあいステージ）
④⑰市子ども会育成連絡協議会（わんぱく広場）	⑤⑲あまの川「南京玉すだれ」（ふれあいステージ）
④⑱市内幼稚園（わんぱく広場）	

【評価】

○昨年に引き続き東北復興支援イベントとして開催し、大船渡市さんままつりや岩手県特産品販売等の企画に大勢の市民の皆さんが来場され、多額の義援金も集まり、大盛況であった。

○震災の記憶を風化させないため、復興支援イベントの位置づけを今後も継続していきたい。

○参加団体数は昨年と同数であったが、ここ数年で徐々に増えてきている。

○次年度は市制 60 周年記念行事との同時開催が予定されていることから、行政と参加団体との間で綿密な打ち合わせを行っていく必要がある。



開会前イベント「おらほのラジオ体操」



大町東小「絆コンサート」



さんま 1,000 匹を焼き上げる
大船渡市観光物産協会の皆さん



市民生児童委員協議会「岩手県特産品販売」

3. ボランティア活動推進事業

(1) ボランティアセンター運営事業

多くの市民が気軽にボランティア活動に参加し、活動しやすい環境づくりやボランティア同士の連携、活動支援を行った。

項 目	実施結果・内容																																	
相談・登録・コーディネート機能の充実	ボランティアに関する相談や連絡調整、情報提供を行った。 ○相談件数 398件 ○登録状況 83グループ 6,220人																																	
ボランティアセンター運営委員会の開催	ボランティアセンターの適正な運営を図るため、運営委員会を開催した。 第1回 7月4日(木) 12人出席 報告事項 平成25年度事業の取り組みについて 会議事項 ボランティア基金の活用について 東日本大震災復興継続支援について 災害ボランティアセンターマニュアルについて 第2回 3月4日(火) 8名出席 報告事項 平成25年度事業報告について 会議事項 平成26年度実施事業について ボランティア基金の活用について 災害ボランティアセンターマニュアルについて																																	
備品貸出と活動場所の充実	○「大田市ボランティアセンター」看板設置(ボランティア基金活用) ○ボランティア室に備品を整備(ボランティア基金活用) ・デスクトップパソコン 1台(インターネット使用可能) ・フルカラーコピー機 1台更新 ○コピー機使用実績 <table><tr><td>団体数17団体</td><td>白黒4,194枚</td><td>カラー181枚</td></tr></table> ○貸出備品延べ数 <table><tr><td>品名</td><td>車いす</td><td>プロジェクター</td><td>スクリーン</td><td>綿菓子製造機</td></tr><tr><td>件数</td><td>74</td><td>10</td><td>3</td><td>16</td></tr><tr><td>品名</td><td>点字器</td><td>ポップコーン製造機</td><td>ポッチャ</td><td>アイマスク</td></tr><tr><td>件数</td><td>118</td><td>14</td><td>19</td><td>16</td></tr><tr><td>品名</td><td>ゲーム</td><td>高齢者疑似体験</td><td>ワイヤレスアップ</td><td>小銭計数機</td></tr><tr><td>件数</td><td>5</td><td>38</td><td>3</td><td>2</td></tr></table>	団体数17団体	白黒4,194枚	カラー181枚	品名	車いす	プロジェクター	スクリーン	綿菓子製造機	件数	74	10	3	16	品名	点字器	ポップコーン製造機	ポッチャ	アイマスク	件数	118	14	19	16	品名	ゲーム	高齢者疑似体験	ワイヤレスアップ	小銭計数機	件数	5	38	3	2
団体数17団体	白黒4,194枚	カラー181枚																																
品名	車いす	プロジェクター	スクリーン	綿菓子製造機																														
件数	74	10	3	16																														
品名	点字器	ポップコーン製造機	ポッチャ	アイマスク																														
件数	118	14	19	16																														
品名	ゲーム	高齢者疑似体験	ワイヤレスアップ	小銭計数機																														
件数	5	38	3	2																														
ボランティア保険等に関する事務	○ボランティア活動保険の受付 Aプラン 1,298人 Bプラン 520人 天災Aプラン 4人 天災Bプラン 25人																																	
やまびこまつり「社協連」参加呼びかけ	○「社協連」に一般参加者を募集 15人参加																																	

● ボランティア登録団体数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
登録団体数	73	78	83	84	83

● ボランティアニュースの発行 年6回（奇数月1日発行）全戸配布10,000部

ボランティア活動に役立つ情報の提供や、福祉意識の啓発を図るため、ボランティア情報紙を発行した。

号 数	発行日	主な記事
155号	5月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアセンター運営委員会開催 ・ 傾聴ボランティア講座修了 登録ボランティア団体へお知らせ
156号	7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育サポーター養成講座参加者募集 点訳本録音図書紹介 ・ 小中学生ボランティア塾参加者募集 社協連参加者募集
157号	9月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興支援イベント開催案内 大雨・豪雨災害義援金募集 ・ 市民ふれあい広場参加ボランティア団体募集
158号	11月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉啓発標語募集 コピー機、パソコン設置 ・ 在宅介護者の集い案内 ボランティア団体市社協表彰
159号	1月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア交流研究集会開催案内 男性の料理教室参加者募集 ・ 出前講座開催 手作りてまり寄贈
160号	3月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉啓発標語入選作品発表 福祉車両愛称「さわやか号」決定 ・ ボランティア活動保険更新案内 腹話術講習会参加者募集

【評価】

○ボランティアセンター運営委員会の開催により、ボランティア基金の活用、新たな事業への取り組みや復興継続支援事業等の検討を行い、実施することができた。
 ○ボランティアセンター案内看板をみて、訪ねて来られる方もあった。
 ○ボランティアニュースは、これからの出来事の情報発信を主眼に記事を構成した。引き続き、ボランティア活動に役立つ情報とボランティア意識の啓発を図りたい。

（２）ボランティア活動相互連携事業

ボランティア同士や小中高等学校との情報交換を行い、ボランティア活動や福祉教育の充実・強化を図った。

項 目	実施結果・内容
小中高等学校との連携強化	○社協が行う事業を掲載した冊子を市内の各小中高等学校に配布し、事業紹介と情報交換を行った。
ボランティア交流研究集会	○開催日 2月1日（土） ○場 所 サン・アルプス大町 参加者170人 ○内 容 ボランティア活動者発表者 「今、求められるボランティア活動」 K T福祉研究所 代表 松藤和生氏 講演
ボランティア団体情報交換会の開催	○開催日 3月17日（月） 参加者13人 ○場 所 大町市総合福祉センター大会議室 ○内 容 「お互いのボランティア活動を知ろう」 名刺交換と自己紹介で団体のつながりをつくる ボランティア活動の課題や要望について情報交換
大北管内ボランティアとの連携	大北ボランティア活動フォーラム ・開催に向けた実行委員会開催 4回 ○開催日 10月18日（金） ○場 所 白馬村多目的集会施設 参加者43人 ○内 容 「つなげよう！ボランティアの輪 ～お互いの活動をもっと知ろう～」 ころろ元気研究所 鎌田 敏 所長 「活動見本市」大町市より2団体出展

	<p>大北ブロックボランティアコーディネーター研修会</p> <p>○開催日 3月18日（火）</p> <p>○場 所 白馬村保健福祉ふれあいセンター</p> <p>○内 容 今年度事業の振り返りと各社協の情報交換</p>
--	---

<p>【評価】</p> <p>○ボランティア団体情報交換会の開催により、ボランティア活動者同士の情報共有や新たな要望も把握できた。今後は、より多くの団体が参加できるよう企画し、定期開催としたい。</p> <p>○各小中高等学校へ配布した冊子を通じて、福祉体験出前講座や貸出備品、啓発標語への取り組みも増加し、各学校との協力やつながりもできてきた。</p> <p>○大北管内の研修を通じ、ボランティアや職員間の情報交換から、市町村を越えた横の連携ができた。</p> <p>○ボランティア交流研究集会の活動発表での雪かき支援等の問題提起から、ボランティアや自治会活動、近所との付き合いの大切さを改めて考える機会となった。</p>
--

（３）災害ボランティア支援態勢整備事業

災害時におけるボランティア活動拠点となる災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの作成協議と、被災地への復興継続支援を行った。

項 目	実施結果・内容
災害ボランティアセンター運営マニュアル作成	長野県社協や大町市等関係機関と連携を図り、災害ボランティアセンター運営マニュアルの内容を、ボランティアセンター運営委員会で検討した。
災害ボランティア登録の受付と被災地への復興支援	<p>東日本大震災復興継続支援事業として、市民ふれあい広場において同時開催した。</p> <p>○開催日 10月5日（土）</p> <p>○場 所 大町市文化会館前広場</p> <p>○内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大船渡市の生さんま1000匹を網焼きし振る舞った。 ・義援金を募る。 240,030円 大船渡市社会福祉協議会へ送金 ・大船渡市特産品の販売 売上金 220,950円 完売 ・東日本大震災ボランティア活動写真の展示

<p>【評価】</p> <p>○大船渡市の方を招いてのさんままつりでは、多くのボランティアの方々の協力により、継続的な復興支援につながった。また、市民ふれあい広場で多くの来場者が訪れ、改めて震災を思い起こす機会となった。</p> <p>○今後は、災害ボランティアセンター運営・設置マニュアルを活用し、地域での研修活動を踏まえて、災害時の支援態勢づくりに努める。</p>
--



ボランティア団体情報交換会



講演「今、求められるボランティア活動」
（市ボランティア交流研究集会）

Ⅲ 安心して暮らせるまちづくり

日常生活で支援を必要とする人が、住み慣れた地域で暮らし続けるための各種在宅福祉サービス等を提供し、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが生きがいをもって「安心して暮らせるまちづくり」の推進に努めた。

1. 生活支援活動の推進

(1) 各種相談事業



「一人で悩むより、早目の相談が解決の第一歩ですよ」と呼びかけ、身近な悩みごとの相談ができる窓口として心配事相談所を開設した。日々の暮らしの中での大小の悩みごとについて、相談者の話に耳を傾け、共に解決への方途を見出すように努めた。

項 目	実施結果・内容
心配ごと相談	<ul style="list-style-type: none"> 年間相談件数は65件であった。前年度に比べて16件の増である。 相談内容は、財産に関するもの、土地家屋、家族関係をめぐる相談、苦情と続いている。 司法書士の相談日は比較的相談者が多くみられた。

● 相談件数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
相談件数	60	43	46	49	65

● 相談所の開設状況

相談区分	会 場	開設日	開設時間	相談員数
心配ごと相談	総合福祉センター	毎月月曜日	13:00~16:00	毎回2名
司法書士相談		毎月2回	13:00~15:00	毎回1名
法律相談		年2回	15:00~17:00	毎回1名

● 相談内容（法律相談含む）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	備 考
相談事項	生計	土地家屋	家族	離婚	財産	金銭貸借	事故	近隣	福祉	苦情	その他	心配相談 57件 (司法相談含む) 法律相談 8件
	2	12	11	3	14	6	3	1	2	9	2	65件

【評価】

○心配ごと相談に訪れる方で、相談内容も多岐にわたっているのが現状。適切な助言ができたか若干の不安もあるが、相談者とともに解決の糸口を探るように努めている。
○相談者からは「聞いていただいて楽になった」「いいアドバイスをいただいた」という声が届いている。
○事前予約制をとっているが、相談者が全くいない日も度々あるのが残念に感じる。

(2) 福祉輸送サービス事業

一人では公共交通機関が利用できない人（要介護者や身体障がい者等）に対して輸送サービスを提供した。

項 目	実施結果・内容
福祉輸送サービスの提供	毎週月曜日から金曜日（祝日・年末年始を除く）8:30～17:00 ○運行日数・回数 244 日、延 2,337 回 ○利用登録者数 115 名（申請件数 38 件、新規登録件数 38 件）
福祉車両の貸し出し	社協会員を対象に、土・日・祝日を中心に福祉車両の貸し出しを行なった。 ○利用件数 11 件 また、大田市から新たに福祉車両 1 台が貸与されたことを受け、福祉車両貸出要綱を改正し、貸出車両の指定を経年劣化により故障が頻発していた車両から、より年式の新しい車両に変更した。
新たなニーズへの対応	地理的要件や経済的要件による移動困難者への対応として、過疎地有償運送について検討したが、行政や関係者を交えた全市的な議論が必要と判断し、結論を見送った。
利用方法の検討	期間満了による登録更新申請に合わせて待機料金を含めた利用料金の設定について検討した結果、料金は変更せず、大田市外の運行範囲を市境から 20km 以内に改めた。
広報・啓発活動	9月に昭和電工ユニオン・昭和電工(株)から大田市に寄贈された福祉車両 1 台が本事業のために貸与されたことから、美麻地域福祉センターに配備するとともに、社協報において報告し、市民から愛称募集を行なった。 ○愛称：「さわやか」号 (応募作品 8 点)



「さわやか号」

● 利用登録者数の推移 (単位：人)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
利用登録者	202	252	256	141	115

● 拠点別運行回数の推移 (単位：回)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
総合福祉センター	1,786	1,788	1,643	1,722	1,641
八坂地域福祉センター	666	576	668	690	462
美麻地域福祉センター	576	569	533	304	234
合 計	3,028	2,933	2,844	2,716	2,337

【評価】

○透析患者などの定期利用者の死亡や施設入所が相次いだことにより、運行回数が減少したが、一時的なものと思われ、今後は高齢化とともに需要が増加していくことが見込まれる。
○昭和電工様から大田市への寄贈車両 1 台が貸与されたことから、各拠点と貸出用車両の配置変更を行い、車両設備の増強を図ることができた。
○曜日等によっては、車両に空きのある時間帯があることから、運転者講習修了者を増やし、利用希望に応えられる態勢づくりと効率的な運行に努めていきたい。

(3) 日常生活自立支援事業

大北地域の基幹的社協として、判断能力が十分でない方（認知症、知的障がい、精神障がい等）の福祉サービスの利用援助や、日常の金銭管理等のサービスを提供した。

項 目	実施結果・内容
定期的な支援計画の見直し	利用者一人ひとりについて、カンファレンス等の意見を取り入れながら、3ヵ月に1度の支援計画の見直しを実施した。
判断能力低下が著しい利用者の成年後見制度への移行支援	高齢者・障害者のための成年後見個別無料相談会に出席し、関係者と後見制度への移行に向けた話し合いを行なった。 また、大北社会福祉士会が主催する成年後見相談会に出席し、対象と思われる契約者について、具体的な相談を行なった。
生活支援員の研修	中信地区内の生活支援員を対象とした研修会に参加した。 ・開催日時：平成25年11月26日（火） ・会 場：安曇野市堀金支所
制度周知の広報活動	事業の概要と利用方法を社協報に掲載し、事業の周知を図った。 市包括支援センターケアマネ研修、社会福祉士研修において、本事業の概要や現状について説明した。

● 年度末契約者数・年間支援回数の推移 (単位：回)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
年度末実契約者数	57	55	58	55	59
年間支援回数	2,864	2,535	2,884	2,462	2,490

● 市町村別・対象者別契約者数（平成 26 年 3 月末現在） (単位：人)

対象者	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	合計
認知症高齢者	19	2	0	8	2	31
知的障がい者	7	0	0	0	0	7
精神障がい者	15	0	0	2	1	18
そ の 他	3	0	0	0	0	3
合 計	44	2	0	10	3	59

● 市町村別・対象者別支援回数（平成 25 年度中） (単位：回)

対象者	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	合計
認知症高齢者	2,468	82	0	147	37	1,734
知的障がい者	77	0	0	0	0	77
精神障がい者	466	0	0	62	26	554
そ の 他	125	0	0	0	0	125
合 計	2,136	82	0	209	63	2,490

【評価】

○精神障がい者の契約が昨年に引き続き多くなってきている。支援内容が複雑なため、生活支援員へ依頼できず、専門員対応が増えている。

○関係機関との連携や情報を共有し、判断能力低下が著しい利用者の成年後見移行を進めていきたい。

(4) 豊かな暮らし応援事業

家族の介護に関する悩みや不安、通院や買い物の不便さなどの生活課題に対し、関係機関と連携しながら、課題解決に向けた活動を行った。

項 目	実施結果・内容
美麻診療所 患者輸送業務	美麻地区内の住民を対象に、美麻診療所への患者輸送業務を実施した。 ○運行日数 140日（毎週月・水・木曜日） ○年間延利用者数 842人（月平均70人）
在宅介護者 リフレッシュ事業	家族を介護している方々の心身の疲れを癒し元気回復を図ることを目的に、以下のとおり在宅介護者の集いを開催した。 ・開催日時：11月28日（木） 午前10時～午後3時 ・開催場所：金熊温泉「明日香荘」 ・参加人数：13名 ・内 容：市内鍼灸院協力のもと、無料マッサージ 講師袖山さんによるフラワーアレンジメント 福祉相談全般
八坂美麻配食サービス 配達業務	八坂・美麻地区内の高齢者等を対象に、各地域福祉センターを拠点とした配達ボランティアによる配食弁当の配達業務を実施した。 （当該業務は、以前は各地区社協が大町市から依頼を受けて実施していたが、H24年度から美麻地区を、H25年度からは八坂・美麻両地区を、本会への委託に切り替えて実施している） ○ボランティア数（八坂：6名 美麻：1名）

● 美麻診療所患者輸送業務利用者数の推移 (単位：人)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
年間延利用者数	715	824	737	798	842

● 在宅介護者リフレッシュ事業参加者数の推移 (単位：人)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
参加者数	21	23	①8 ②12	13	13

● 八坂美麻配食サービス配達業務利用回数の推移 (単位：回)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
八坂地区	403	470	638	897	550
美麻地区	323	323	189	181	125
合 計	726	793	827	1,078	675

【評価】

- 美麻診療所患者輸送業務は、高齢者が多い中、乗降時も補助しながら安全に送迎を行うことができた。
- 在宅介護者リフレッシュ事業は、周知・開催方法に配慮したが、参加者数を伸ばすことができなかった。ただし、参加者からは実施内容等到大変満足したと好評であった。
- 配食サービス配達業務は、高齢化による対象者の増加が見込まれるものの、民間サービスも広がりつつあり、今後の事業量が不透明であるが、ニーズに対応できる配達ボランティアを育成していく必要がある。

2. 高齢者福祉活動の推進

年を重ねても暮らしに張りのある充実した在宅生活を継続できるよう、生活支援ホームヘルプサービスと生きがいデイサービスを実施した。

(1) 生活支援ホームヘルプサービス事業

利用者の残存能力を引き出して自立を促し、意欲的な心身機能の維持向上に努めながら、家事援助等のホームヘルプサービスを提供した。

項 目	実施結果・内容	
生活支援ホームヘルプサービス	○開設日数	243 日
	○月平均契約者数	5 人／月
	○年間訪問回数	252 回（月平均 21 回／月）

● 生活支援ホームヘルプサービス年間訪問時間数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
年間訪問時間数	372	408	360	420	252

【評価】

- 生活支援者へのサービス提供として、自立した生活が送れるよう、利用者の意欲と主体性を引き出す支援方針に従い、実施することができた。

(2) 生きがいデイサービス事業

利用者の心身機能の維持向上に努めながら、生きがいづくりにつながるグループ活動サービスを提供した。

項 目	実施結果・内容	
デイサービスセンター みさか	○開設日数	244 日
	○月平均契約者数	4 人／月
	○年間延利用者数	197 人 （月平均 16 人／月）
デイサービスセンター みあさ	○開設日数	244 日
	○月平均契約者数	5 人／月
	○年間延利用者数	148 人 （月平均 12 人／月）

● 生きがいデイサービス年間延利用者数の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
デイみさか	6	0	20	140	197
デイみあさ	565	397	207	179	148
合 計	571	397	227	319	345

【評価】

- デイみさかでは、年度当初の対象者は6名であったが介護保険への移行等で減少し、年度末には2名となった。
- デイみあさでは、対象者の介護保険への移行傾向はあるが、登録者の利用回数は増加している。
- 介護保険への移行の緩和（心身状況の維持）のためのサービス提供が今後の課題となる。

3. 介護保険事業の推進

利用者とともに介護者への支援となるサービスを志向し、ニーズの掌握と柔軟性のあるサービス提供に努めた。

項 目	実施結果・内容
サービスニーズへの対応	○利用者状況の掌握について情報の提供と共有に努めた。 ○サービス提供についてニーズに応える調整を行なった。
安定した事業運営	○事業所努力は稼働数の増加として評価された。
人材の育成による質の高いサービス提供	○外部研修会 職員派遣44会場 延106名 ○内部研修会 開催12回 延208名 職員資質の向上に努めた。

● 介護保険収入の推移 (単位：千円)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
介護保険収入	260,273	262,290	259,817	257,249	259,378

【評価】

- 信頼を得るサービス事業者として「変貌する多様なニーズに応え、サービスを円滑に提供すること」がさらに、今後の事業運営に求められる。

(1) 居宅介護支援事業

「利用者本位」と「自立支援」を基本に、利用者の状況に応じた迅速な対応を心がけ、より質の高いケアマネジメントに努めながら、居宅介護支援サービスを提供した。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日(毎週月曜日から金曜日) ○年間延利用件数 1,145件(平均95件/月)
在宅生活の継続支援	定期的なモニタリングを行い、利用者の心身状況を把握するとともに状況に即した介護支援や情報提供に努めた。
関係機関との連携強化	サービス事業者や関係機関等との情報共有等に努め、連携を図りながら在宅生活の継続的支援を行なった。
介護支援専門員としての資質・専門性の向上	主任ケアマネ研修(1名)を受講したほか、市包括支援センター等が開催した各種研修会に参加し、専門職としての資質の保持・向上に努めた。

● 年間ケアプラン作成件数の推移 (単位：件)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
要 支 援	41	31	71	111	149
要 介 護	997	989	1,027	1,047	996
合 計	1,038	1,020	1,098	1,158	1,145

【評価】

- 介護から介護予防への移行や冬季間の施設入所等により利用者減となり、当初の収入目標額は達成できなかった。
○ 認知症や独居利用者への対応ケースが増え、介護保険外の業務が増大したが、関係機関と密な連携を図りながら対応した。

(2) 訪問介護事業

介護が必要な利用者が住み慣れた自宅で可能な限り自立した日常生活が送れるよう、その能力の維持向上に努めながら、訪問介護サービスを提供した。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 365日 ○月平均契約者数 136人/月 ○年間訪問時間数 22,356時間（平均1,863時間/月）
積極的かつ柔軟な受け入れのための人材確保	新たに登録ヘルパー1名の確保ができた。
自立に向けた介護予防支援	サービス提供が自立につながり、介護度が軽くなるケースがあった。本人の意欲向上に努めた。
内部研修の実施による技術・資質の向上	内外部研修を毎月1回定例で実施し、技術の習得、資質の向上に努めた。
利用者・家族との良好な信頼関係	利用者の個性に合わせたヘルパー派遣を心がけ、苦情にも真摯で柔軟な対応を行いながら、利用者との良好な信頼関係の構築に努めた。

● 年間訪問時間数の推移 (単位：時間)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
要 支 援	3,781	2,802	3,271	2,740	3,102
要 介 護	20,639	19,811	18,085	18,081	19,254
合 計	24,420	22,613	21,356	20,821	22,356

【評価】

- 老々介護世帯の増加とともに在宅生活の維持が困難となるケースが多く発生している。その結果、施設指向・短期入所が増加し、実績は低迷傾向となった。
- 新規受け入れを積極的に行なった。訪問時間帯の重複により、利用者の要望に応えられない状況も多く発生したが、ケアマネジャーとの密な連絡調整を図りながら対応できた。



(3) 訪問入浴介護事業

寝たきり等で入浴が困難な方にも、ご自宅で安心して心地良く入浴していただけるよう、また、介護者の負担軽減に努めながら、訪問入浴サービスを提供した。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 204日(毎週 月・火・水・金曜日) ○月平均契約者数 9人/月 ○年間延利用者数 494人(平均41人/月)
サービス提供態勢の充実(専任職員の確保等)	○提供に係る職員体制 ・看護師、オペレーター(通所介護事業所と兼務)各1名 ・介護員(専任職員1名のほか、登録ヘルパーの派遣)
サービス提供実施地域外への対応	○中山間地(小谷村)へのサービス提供 ・H25: 契約者数 8名 利用回数 90回/年 ・H24: 契約者数 5名 利用回数 37回/年
サービスの質の向上	専任職員の確保により統一した手技でサービスを提供した。
訪問・通所サービスからの円滑な移行対応	ケアマネジャーとの連携により、他サービスからの迅速な移行対応に努めたが、「開設日(木曜日)の追加」「介護予防サービスの実施」の要望をいただいている。

● 年間延利用者数の推移 (単位: 人)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
要 介 護	47	135	218	434	494

【評価】

- 他サービスからの移行に迅速に対応することができた。
- 依頼件数は年々増加傾向にある。ケアマネジャーからの要望には今後、職員体制の整備と共に対応していく必要がある。応えられるよう努めたい。
- 中山間地のニーズも増加傾向にある。サービスを必要とする利用者・介護者ニーズに応えることができた。



(4) 通所介護事業

利用者の心身機能の維持向上のため、機能訓練やレクリエーションサービスの充実を図り、また、ニーズに応じた柔軟な利用調整に努めながら、通所サービスを提供した。

項 目	事業結果・内容
事業運営計画に基づいたサービスの提供	ニーズに沿った柔軟な質の高いサービス提供（サービスの調整、提供内容の充実等）に努めた。
心身機能の維持・低下の緩和・改善サービス提供	介護者やケアマネジャーと情報の共有に努め、通所介護計画書の見直し等を行いながら、効果的なサービス提供に努めた。

● 年間延利用者数の推移（要支援・要介護合算）（単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
デイひなたぼっこ	—	1,877	1,940	1,952	2,321
デイこすもす	5,873	8,019	6,964	6,607	6,929
デイみさか	4,414	4,157	3,433	3,069	3,594
デイみあさ	3,375	3,628	3,755	4,186	3,986
合 計	13,662	17,681	16,092	15,814	16,830

【評価】

- 事業所ごとに稼働状況を調整しながら、個々のニーズに応じたサービス提供に努め、一定の稼働数の増につながった。
- 今後とも事業所の特性（地域性・設備・サービスの質等）を生かしながら、選ばれる事業者としての事業運営が求められる。

① デイサービスひなたぼっこ（地域密着型認知症対応デイサービス）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 359日（毎週日曜日から土曜日） ○月平均契約者数 20人／月 ○年間延利用者数 2,321人（平均193人／月）
サービスの質の向上による安定経営	○新規利用者14名 利用終了者11名 ○12/29入浴サービス（自主事業） 利用者8名
認知症進行の緩和・介護者支援サービスの提供	生活リハビリ（日常生活作業を通じた認知症状進行の緩和）提供メニューの充実にも努めた。 ケアマネジャー・介護者宛てに毎月の利用状況報告書を提供し、情報の共有に努めた。
ボランティアの育成	○地域交流事業の企画運営（白塩町自治会） 5企画 参加者・支援ボランティア 延10名・利用者33名 ○季刊誌「ひなたぼっこだより」の発行 年4回

● 年間延利用者数の推移（単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
要 介 護	—	1,877	1,940	1,952	2,321

【評価】

- 新規利用者が増加し、終了者は過年度並みであった。
- 認知症状に加え、身体機能の重度化傾向が伺える。
- ニーズの変化に応じ日々、適切なサービス提供ができるよう、より情報の共有、関連機関との連携を強めていく必要がある。

② デイサービスこすもす（通所介護・介護予防通所介護）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 359日（毎週日曜日から土曜日） ○月平均契約者数 80.9人／月 ○年間延利用者数 6,929人（平均577人／月）
利用者ニーズに応えるサービス提供と安定経営	冬期の3ヵ月、施設入所者の登録を確保しつつ、空いた利用日を臨時利用や新規利用者の受け入れに充てた。その結果、介護予防及び軽度要介護の新規利用者の確保に繋がった。
生活の質の維持・改善のための支援	『看護と介護を合わせて快護へ』をスローガンに、ご本人・ご家族、ケアマネ等、関係者との密な連携を図り、ご本人やご家族の心身の健康維持に努めた。
充実した入浴設備の活用	○特殊浴槽（機械浴）利用者平均 7.6 名/日（最大 11 名/日登録） 安全に配慮しながら快適な入浴サービスの提供に努めた。 ○年末の入浴サービス（特殊浴槽利用者対象）6名
情報発信	芸能ボランティア団体のほか、幼稚園、小・中・高等学校等、あらゆる世代間との交流を通じてデイサービスの啓蒙に努めた。 ○こすもす通信 年4回発行 ○アンケートの実施・集計結果の公表

● 年間延利用者数の推移

（単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
要 支 援	1,712	1,158	1,541	1,809	2,637
要 介 護	4,161	6,861	5,423	4,798	4,292
合 計	5,873	8,019	6,964	6,607	6,929

【評価】

- ニーズに応え、軽度の方の受け入れを進めた結果、稼働は増加したものの、収入は減少した。
- 医療処置の必要な方やリハビリを希望される方のニーズが増加傾向にある。



デイサービスでお出かけ ～紅葉狩り～
（デイサービス こすもす）



デイサービスで運動会（デイサービス みさか）

③ デイサービスみさか（通所介護・介護予防通所介護）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 256日（毎週月曜日から金曜日） ○月平均契約者数 34人／月 ○年間延利用者数 3,594人（平均300人／月） ○自主事業の実施（年末入浴サービス（12/30）利用者13名）
利用ニーズに応えるサービス提供と安定経営	安定した利用者確保に努めた。利用者の増加により登録者数が少なかった水・木曜日が充当され、日々の稼働が安定した。
新規利用者の確保	○新規利用者 16名（八坂地区内8名、その他8名）
利用者・家族への柔軟な対応	利用者・家族に喜ばれる柔軟なサービス提供に努めた。

● 年間延利用者数の推移 （単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
要 支 援	645	234	290	276	570
要 介 護	3,769	3,923	3,143	2,793	3,024
合 計	4,414	4,157	3,433	3,069	3,594

【評価】

- 例年、稼働が低迷する時期（12月から1月）に、新規利用者等の受け入れができたことで、一定の成果を収めた。
- ニーズに対応した努力が新規利用者の紹介に繋がった。

④ デイサービスみあさ（通所介護・介護予防通所介護）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 256日（毎週月曜日から金曜日） ○月平均契約者数 47人／月 ○年間延利用者数 3,986人（平均332人／月）
利用ニーズに応えるサービス提供と安定経営	ご利用者に対し、きめ細やかなアセスメントを行い、居心地のよいサービスを提供し、新規利用の受け入れと利用の継続につなげた。 ○自主事業の実施 年末入浴サービス（12/30）利用者18名
新規利用者の確保	関係機関との連携に努め、迅速な対応を行った。
利用者・家族への柔軟な対応	個別のニーズに対応したサービスを提供した。 提供サービスの見直しと充実に努めた。
地域住民との交流	季節の行事企画を通して、地域の子供達等との世代間交流に努めた。

● 年間延利用者数の推移 （単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
要 支 援	1,214	1,034	984	1,182	943
要 介 護	2,161	2,594	2,771	3,004	3,043
合 計	3,375	3,628	3,755	4,186	3,986

【評価】

- 介護保険制度の普及とともに、サービスや事業者を選択できる地域となった。事業者の移行に適切に対応できた。

4. 障がい者福祉の推進

個々の持つ能力を活かし、地域で豊かな日常生活を送るため、障がいについての理解を促進し、障がい者の余暇活動や就労を支援する事業を実施した。

● 自立支援給付費収入の推移

(単位：千円)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
自立支援給付費収入	73,816	81,712	85,557	84,989	84,744

【評価】

- 障がい福祉サービス計画支援事業と連携することで、今まであまり知られなかった利用者の意向が見え始めた。今後は相談支援専門員ほか関係部署との連携をより深め、更にきめ細やかなサービス提供に努める必要がある。

(1) 障がい理解促進事業

障がい福祉に関する情報提供や地域住民との交流会を通じて、地域における障がい福祉の理解促進に努めた。

項 目	事業結果・内容
障がいの理解促進のための情報提供や講座・講演会等の開催	自立支援協議会で勉強会を開催した。 ①11/9「災害時の要援護者の支援」大町合同庁舎 参加者 62 名 ②3/15「当事者団体・家族会の障がいの理解」大町市総合福祉センター 参加者 32 名
市内小中学校の体験実習受け入れを通じた啓発活動	○仁科台中学校特別支援学級「仁科学級」実習受け入れ 6 回 ○第一中学校との交流会（風船バレー）

【評価】

- 地震など「災害に対する備え」が身近で語られるようになってきているが、障がい者も含めた「災害時の要援護者の支援」の講演会では、実体験からの教訓が聞け、支援のあり方を研修できた。
- 福祉体験の場として市内中学校生徒との交流の効果は大きいと感じるが、障がい理解促進啓発活動は十分とはいえなかった。より多くの児童生徒に理解してもらえよう展開していきたい。



第一中学校との交流会（ひまわりの家）



「つながろう心と心の集いフォーラム」
～当事者団体・家族会の障がいの理解～

(2) 余暇活動支援事業

障がいのある方が参加しやすい旅行や交流会の開催、スポーツ大会や音楽会等のイベント情報の提供を通じて、障がい者の社会参加を促すための環境づくりに努めた。

項 目	事業結果・内容
障がい児・者希望の旅事業の実施	市内の障がい児・者を対象に、安全に安心して参加できる旅行を企画し、実施した。 ○開催日：9月26日（木） ○行 先：諏訪市「原田泰治美術館」、「諏訪湖遊覧船」、「諏訪大社」、「諏訪湖オルゴール博物館奏鳴館」 ○参加者：42名
知的障がい者の余暇活動支援等の企画	なかなか行く機会が少ない空港へ行き、飛行機・ヘリコプター・化学消防車などを間近で見学したり触れたりする体験をし、実際に飛行機が離発着する様子を見学した。 ○11/23「信州まつもと空港で遊ぼう」 参加者 41名
大北地区障がい者運動会への参加	昨年同様に大町Bチームとして、「ひまわりの家・たんぽぽ」の利用者とは法人「がんばりやさん」利用者としてチームを編成し、参加した。 ○開催日：6月15日（土） ○場 所：大町市総合体育館 ○参加者：18名
当事者参加による生活向上事業（エンパワメントプログラム）	障がいを受容し、自信を取り戻す取り組みや、外出・仲間づくりを支援した。 ①9/8「長野県障がい者スポーツ大会見学」松本平公園総合運動場 参加者 14名 ②12/9「地域リハビリテーションのつどい」長野県安曇野庁舎 参加者 18名 ③2/6「ピア・カウンセリング集中講座」大町市総合福祉センター 参加者 6名 音声パソコン教室は、講師（視覚障がい）に月一回来ていただき、情報機器の使い方及びピア・カウンセリングを行った。 延参加人数 14名
外出支援	障がいにより日頃外出が難しい方に対し、外出のきっかけをつくるために自宅や病院からの外出支援を行なった。
余暇活動の広報・啓発	サンアップル主催の水泳教室及びその他スポーツ講座の広報を行なった。また、旅行の情報を発信した。

● 障がい児・者希望の旅事業参加者の推移

（単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
参加者数	40	34	40	48	42

【評価】

- 希望の旅の参加者は、毎年欠かさず参加されている方、旅行の機会を求めて新規申し込みをされる方、それぞれであった。年1回の実施ではあるが、日々の生活を離れ、リフレッシュされており、翌年の旅行を楽しみにされている。
- 継続して音声パソコン教室のみを行ってきたが、他の障がいの方の支援も必要だと考える。自立支援協議会当事者部会で検討し、できることがあれば事業に加えていきたい。

(3) 障がい者就労支援事業

障がい者が地域で安心して働くことができるよう、障がい者・企業等双方への情報提供や就業に必要な訓練・実習などを支援し、障がい者の社会参加促進に努めた。

◆ 就業・生活支援事業（スクラム・ネット）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○支援対象障がい者数 170名 ○障がい者に対する相談・支援件数 1,928件 ○職業準備訓練及び職場実習の斡旋数 20件 ○就職件数： 17件
障がい者の就職に向けた支援（就職準備訓練、現場実習機会の提供）	障がい者短期トレーニング促進事業により、障がい者の短期職場実習（1カ月以内）に係る経費を実習者に支給した。 ○対象者：障がい者就業・生活支援センター登録者 ○利用者：2名（計5日実施）
障がい者雇用についての企業への働きかけ	「障がい者雇用促進セミナー」を開催した。（2/1 大町合同庁舎） ○開催内容：①障がい者雇用に係る制度の説明 ②障がい者雇い入れ企業による事例紹介 ③障がい者支援機関の支援内容の紹介 ○参 加 者：19名
公共職業安定所などの関係機関との連携	大北障がい保健福祉圏域自立支援協議会の日中活動・就労支援部会を開催した。大町公共職業安定所、大町保健福祉事務所（福祉課、健康づくり支援課）、松本地方事務所商工観光課（求人開拓員）、市町村障がい福祉担当者、進路指導主事（特別支援学校、普通高等学校）、障がい福祉サービス事業所等（37 機関）が定期的に集まり、圏域の障がい者就労に関わる課題について情報交換・情報共有を行なった。
就職後の職場定着支援	障がいを開示して就労している方の就労先へ定期訪問し、事業所の困りごとと在職者の困りごとについて調整を行い、職場定着を図った。訪問以外では、就労時間終了後スクラム・ネットでの面談、電話、メールでの相談支援を行なった。
障がい特性を踏まえた雇用管理についての事業所への助言	電話、企業訪問、支援会議等により、知的障がい者の職場実習後の雇用検討や、トライアル雇用期間中の精神障がい者の就労状況調査、発達障がい者の雇い入れに向けた調整、高次脳機能障がい者の職場復帰に向けた調整等を実施した。 ○相談・支援実施事業所 38 事業所
障がい者雇用に関する制度や事例などの広報活動	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構より、障がい者雇用に関わる制度や事例紹介の情報提供（高次脳機能障がい者と働く精神障がい者のための職域拡大及び職場定着に関する職場改善好事例集等）があり、日々の支援、事業所訪問等により周知した。

● 大北管内における障がい者の就労実績の推移

（単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
就労障がい者数	17	29	15	16	17

【評価】

- 障がいを開示せずに就労している方については、本人と事業所の間でトラブルが生じて、支援者が直接介入できないことから、働き続けることが難しいケースがある。
- 就業・生活支援センター事業の事業継続にあたっての必須条件は満たすことができた。引き続き次年度の目標値に向け、就業・生活に関わる支援を充実させたい。

（４）地域生活支援事業

利用者が安心して生活を送れるよう、保健・医療、地域の支え合い活動などと連携しながら、各種相談支援を行った。また、利用者の能力と生活状況に応じたサービス利用計画の作成、各種生活支援サービスを行った。

① 日中一時支援事業（多機能型障害福祉サービス事業所）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 195日（毎週月曜日から日曜日） ○年間延利用時間数 515時間（月平均42.9時間）
利用者へのマンツーマン支援	利用者1名に対してサポーター1名を手配して支援した。特に重度障がい利用者には、サポーターを増員し、手厚い支援を行なった。
登録サポーターの整備	○登録サポーター 13名

● 年間延利用時間数の推移（単位：時間）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
年間延利用時間数	748	847	656	518	515

【評価】

○ 利用者数は前年度に比べてやや減少した。従前から取り組んでいる支援方法に対して寄せられる信頼は、市外に引っ越してもご利用いただけるまでになっている。

② いこいの家事業（多機能型障害福祉サービス事業所）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 42日（毎週月曜日） ○年間延利用者数 233人（月平均19.4人）
利用者が安心して活動できる場所と機会の提供	利用者の希望に添いながら、室内、野外でのスポーツ、レクリエーション、季節を感じる行事などの多彩な活動を、年間を通じて行なった。

● 年間延利用者数の推移（単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
いこいの家利用者数	144	185	194	213	233

【評価】

○ 新規利用により利用人数が増えた一方で、体調により参加が少なくなった方もいた。
○ 現在は精神障がい理解の深いボランティアに恵まれ、充実した活動ができているが、今後は後継ボランティアの育成を考えていく必要がある。



みんなで料理教室（いこいの家）

③ 障害福祉サービス計画支援事業

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月曜日から金曜日） ○年間計画作成件数 12件（月平均1.0件） ○年間モニタリング件数 43件（月平均3.6件）
サービス利用計画の作成	利用者の意向を最大限に尊重し、家族やサービス事業所等の関係者との調整を行いながら、適切なサービス利用計画の作成に努めた。
モニタリングの実施	利用者の主体的な生活の確保や生活の質の向上を目的に、一定の期間で計画の見直しを行なった。

● 計画作成・モニタリング件数の推移 (単位：件)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
計画作成件数	—	—	—	17	12
モニタリング件数	—	—	—	1	43

【評価】

- 平成24年度から3年間で障害福祉サービスを利用している方全員の計画作成を行うこととされているが、利用者の中には計画作成に至るまでの調整や日々の多様な不安解消等の支援が必要な方も多いため、計画作成は順調ではなく、収入も目標額に及ばなかった。
- 利用者本位の支援が受けられるよう、相談支援専門員の更なる技量向上が求められる。

④ 大北圏域障害者相談支援事業（スクラム・ネット）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月曜日から金曜日） ○年間延相談件数 6,423件（月平均535.3件）
来室、電話、訪問等での相談支援	来室、電話、訪問等により、身体・知的・精神の3障がいに加えて、発達障がい、高次脳機能障がい、難病等をお持ちの方の相談を行なった。
圏域町村へ出張相談	○池田町4回 ○白馬村2回 ○小谷村4回
ピアカウンセラーによる相談支援	自らも障がいを持つ相談員が対等な立場で話を聞き、その経験を活かした相談支援を行なった。
当事者団体等支援	地域で自主的に活動している当事者団体や、家族会への助言を行なった。また、自立支援協議会当事者部会の活動に協力し互いの知識向上を図った。
自立支援協議会の運営	全体会と各専門部会を組織し、共通の目的に向けた情報の共有と関係者によるネットワークの構築を図った。

● 年間延相談件数の推移 (単位：人)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
相談支援件数	6,254	5,844	6,545	6,724	6,423

【評価】

- 訪問相談が増加しており、訪問先は各福祉センターや自宅、病院、会社と多岐にわたる。
- 圏域町村へ出張相談は効率を考慮して回数を減らしてきたが、池田町、白馬村、小谷村は要望があるため継続している。
- 自立支援協議会は、相談業務の増加に伴い事務局の運営事務が負担になってきている。
- 病院を出て地域での生活を希望する方はいるが、現在のところ地域移行・地域定着支援事業所は人員不足により稼働していない。また、地域移行支援コーディネーター事業が平成26年度で廃止されるため、地域移行が進まない状況がある。次年度は指定一般相談支援事業所の再開に向けて準備していく。

⑤ 療育支援事業（スクラム・ネット）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 244日（毎週月曜日から金曜日） ○年間延相談件数 2,451件（月平均204.3件）
乳幼児フォローアップ教室（あそびの教室等）	小谷村を除く4市町村が月1～2回開催する教室に専門職員が参加し、集団療育や個別課題に対する助言などを行なった。
ソーシャルスキルズトレーニング（社会生活機能訓練）	池田町、大町市、児童発達支援センター（1か所）で開催し、専門職員によるスーパーバイズ（教職員等への指導・助言）を行なった。
ペアレントトレーニング（父母等に向けた子供への関わり方の教室）	池田町・白馬村・大町南小学校特別支援学級で1年を通して開催し、父母等への助言などを行なった。
研修会の開催（保育園、学校、施設等）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の5歳児発達相談に向けた保護者研修会講師。（3回） ・作業療法士による感覚統合の研修会（保育園、学校で計5回） ・臨床心理士によるアセスメント（WISC-IV）研修会 ・セカンドステップ指導者養成研修会（2日間 キッズウィルと共催）
児童発達支援巡回相談事業	年度当初に各市町村とスケジュール調整し、療育コーディネーターと専門職員が、圏域内の全ての保育園・幼稚園から高校までをほぼ毎日巡回し、保護者や関係者への相談支援を行なった。 ○保育園等訪問回数 606件（月平均50回）

● 年間延相談件数の推移

（単位：件）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
訪問療育等支援事業	707	569	592	547	506
外来療育等支援事業	469	277	1,023	725	498
施設支援一般指導事業	814	550	922	829	972

【評価】

- 乳幼児フォローアップ教室では、そこから医療受診につながるケースも多かった。
- 各地でソーシャルスキルズトレーニングの必要性や有効性が知られ、保育園、学校でも組み込まれるようになってきている。
- ペアレントトレーニングに関して、父母の関わり方で子どもたちが変容することが広く知られるようになってきた。平日昼間は参加が難しい人が多いため、開催時間を考えていきたい。
- 全ての市町村の5歳児発達相談に協力し、子供たちの特徴を早くから把握し、早期発見・早期発達（療育）支援に繋がってきている。また、住民の啓発にも通じていると思われる。



⑥ 障害者地域活動支援センター（ハーモニー・ルーム）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 245日（毎週月曜日から金曜日） ○月平均契約者数 11.8人/月 ○年間延利用者数 1,635人（月平均136.3人）
趣味を生かした講座型事業の実施	自宅にこもりがちなご利用者が、張り切って参加できるよう、趣味を生かした21種の講座を企画し、実施した。 ①絵画、②ちぎり絵、③絵手紙、④紙粘土、⑤書道、⑥陶芸、⑦トールペイント、⑧アレンジメントフラワー、⑨革細工、⑩水引、⑪機能訓練、⑫マレットゴルフ、⑬料理、⑭押し花、⑮草木染、⑯童謡唱歌、⑰カラオケ、⑱外出、⑲はた織り、⑳レクリエーション、㉑映画鑑賞
健康づくりのための機能訓練、外出等	○体力向上・機能維持のための機能訓練講座（毎月1回） ○マレットゴルフ（冬期を除き毎月1回） ○外出講座（書画・映画鑑賞など）
地域との結びつき	地域住民との結びつきを意識しながら、市役所ロビーへの作品展示「ハーモニー展」や、市文化祭への作品展示を行なった。

● 年間延利用者数の推移（単位：人）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
年間延利用者数	1,398	1,360	1,279	1,698	1,633

【評価】

- 新規利用者は順調に伸びているが、設立以来の利用者の中には、講座内容に物足りなさを感じている方もおり、より高度な内容の講座を企画していく必要がある。

⑦ 移動支援サービス事業（障がい者居宅介護事業所）

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 365日（年中無休） ○月平均契約者数 2人/月 ○年間支援時間数 210時間（月平均17.5時間）
屋内外における移動困難の軽減	単独での移動が困難な方を対象に、通院や余暇等にヘルパーが付き添い、屋内外における安全な移動を支援した。

● 年間支援時間数の推移（単位：時間）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
年間支援時間数	507	410	253	214	210

【評価】

- 冬期間は、体調不良等により利用者が減少傾向にあった。
○ 余暇等の利用は決まった方のみであり、その方々も高齢化しているため、利用回数は減少傾向にある。

(5) 障がい福祉サービス事業

利用者が安心して自立した日常生活を送れるよう、保健・医療、地域の支え合い活動などと連携しながら、利用者の能力と生活状況に応じた各種障がい福祉サービスを行った。

① 障がい者居宅介護事業

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 365日（年中無休） ○月平均契約者数 28人／月 ○年間訪問時間数 6,581時間（月平均548.4時間）
内部研修の実施	定期的に研修を実施し、障がいの理解に努めた。
行政との連携による支援態勢強化	計画相談を踏まえた調整を行い、お互いの情報共有を図った。

● 年間訪問時間数の推移

（単位：時間）

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
年間訪問時間数	3,749	5,386	6,408	6,800	6,581

【評価】

○ 高齢化により介護保険に移行するケースが増加してきたため、実績は低迷傾向となった。

② 多機能型障害福祉サービス事業

項 目	事業結果・内容
事業実績	○開設日数 250日（毎週月曜日から金曜日） ○月平均契約者数 54.4人／月 ○年間延利用者数 6,474人（月平均539.5人）
個別支援計画の作成	利用者のニーズを把握し、計画支援事業所、圏域障害者総合支援センター等との連携により、6か月ごと（必要あればその都度）更新した。
利用者健康診断の実施	○利用者健康診断の実施（受診者数 28 名）
散歩等による運動機能向上	○センター内外における運動・散歩の実施（70 回／年）
スポーツ、レクリエーション等の実施	○花見 4 月 23 日（火） ○大北地区障がい者運動会への参加 6 月 15 日（土） ○日帰り旅行 7 月 5 日（金） ○大町地区社協との交流会（ポッチャ）への参加 9 月 6 日（金） ○焼肉会 10 月 8 日（火） ○温泉体験 11 月 28 日（木） ○クリスマス会 12 月 24 日（火） ○新年会 1 月 31 日（金） ○買い物ほか外出活動
リハビリ訓練の実施	○リハビリ体操の実施（72 回／年）
看護師によるケアの充実	常勤看護師により、利用者の日々の健康管理（バイタルチェックなど）を行うとともに、体調不良時（ケガ、発熱、発作など）には適切な医療対応を行い、必要に応じて医療機関との連携を図った。
定期受注の確保と新規作業の開拓、営業	定期受注先：○信越電装㈱、○㈱レチトン、○雷鳥の里本舗田中屋、○丸佐食品㈱、○㈱メディックス昭和、○ホクト㈱、○バザール小町、○わっぱら屋、○大町市役所、○山岳博物館
短期受注の積極的な受け入れ	短期受注作業：○赤い羽根差し込み作業（共同募金会）、○ティッシュ・チラシ封入（労働金庫大町支店）、○アルプスマラソン通知封入（実行委員会）、○カレンダー封入・発送作業（信越電装㈱）ほか
自主製品の改良、新製品の開発、販路の拡大	草木染め、藍染のほか、化学染料も用いた多彩な染物の制作、刺子刺繍の製品、子育て支援課「こんにちは赤ちゃん運動」のよだれかけ（スタイ）や巾着セット受注、民活利用による木製椅子づくりに取り組んだ。

地域のイベントへの参加	○安曇野散歩市、○松本アート展、○えべえべ祭、○大町病院祭、○大町市ボランティア交流研究集会、○ナイスハートバザール、○くろよん祭り、○大町市文化祭、○市民ふれあい広場、○こころの健康を考えるつどい
自主製品販売会の実施	○日時：毎月第3木曜日 9:30～15:30 ○会場：大町市総合福祉センター 1階エントランスホール
喫茶「すまいる」の営業	○営業：毎週木・金曜日 10:00～15:00
会議等へのコーヒーの出張販売	総合福祉センター会議室やサンアルプス等で開催される各種会議や集会の際にコーヒーの出張販売を行なった。 ○総合福祉センター内会議 37回、○外部販売会等 3回

● 年間延利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
就労継続支援 B	5,636	5,281	5,013	4,747	3,405
生活介護	4,295	4,469	4,808	4,206	3,069

● 事業区分別契約者数（平成 25 年 3 月末現在）

(単位：人)

事業所名	生活介護（障害程度区分別）						就労継続 支援 B 型	合計
	1	2	3	4	5	6		
ひまわりの家	—	3	5	5	1	—	22	22
たんぽぽ	—	—	—	2	3	3	—	8
すずらん	—	—	—	—	—	—	15	15
計	—	3	5	7	4	3	37	45

【評価】

- 自主製品の売り上げは横ばい状態であるが、受注作業が増えたことで僅かではあるが工賃を増やすことができた。お客様を魅了する製品・特色ある製品づくりが今後の課題である。
- 定期的な体重測定や適度な運動プログラムの実施により、肥満傾向にあるとされた利用者に少しずつではあるが変化が見られた。



東町市営駐車場草取り作業
(定期受注作業)



レクリエーションの実施
(焼肉会)



自主製品「藍染め製品」
(すずらん)



自主製品「EM 石鹸」ほか
(ひまわりの家)

5. 経済的支援活動の推進

さまざまな事情で経済的に困っている方々が生活意欲を取り戻せるよう、一時的な資金の貸付と生活相談を行った。

また、火災や自然災害等で被災した世帯に対する支援態勢を整えていたが、支給象となる災害は発生しなかった。

(1) 資金貸付事業（小口資金・生活福祉資金）

低所得世帯、障がい者世帯又は高齢者世帯等に対し、経済的自立と生活意欲の助長を図るため、各種資金の貸付と生活相談を実施した。

項 目	実施結果・内容
関係機関と連携した自立支援の推進	貸付相談の都度、行政やハローワーク等関係機関と連携し、相談者の自立支援を図った。
定期的な償還指導、償還依頼通知の発送	毎月1回償還催促通知を発送した。また、連絡のない借受人に対しては、訪問や電話による償還指導を実施した。
償還不能貸付金の整理（行方不明等）	借受人死亡による親族調査及び行方不明者等の調査を実施した。
滞納整理、償還指導の強化	生活福祉資金の長期滞納者宅を県社協と合同で訪問し、償還指導を行なった。（11月7日）

● 資金貸付状況（平成 25 年度中）※年度末貸付金残高には利子・延滞利子を含む。

資金種別		貸付申請		貸付決定		年度末貸付金残高		完済 件数
		件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
小口資金（大町市社協）		4	360,000	4	360,000	29	4,126,477	8
生活福祉資金 （県社協）	総合支援資金	1	360,800	1	360,800	11	2,650,050	0
	緊急小口資金	2	100,000	0	0	13	1,036,837	0
	教育支援資金	3	1,500,000	3	1,500,000	17	6,598,088	0
	福祉資金	2	1,300,000	0	0	18	9,970,280	3
	合 計	8	3,260,800	4	1,860,800	59	20,255,255	11

● 貸付決定件数の推移 (単位：件)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
小口資金（大町市社協）	5	3	1	4	4
生活福祉資金（県社協）	27	19	22	3	4

● 年度末貸付金残高（元金）の推移 (単位：円)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
小口資金（大町市社協）	2,145,078	1,889,078	1,675,000	1,422,000	1,338,500
生活福祉資金（県社協）	5,720,112	11,724,249	16,289,772	15,055,526	15,705,578

【評価】

- 小口資金では、口座振替、電話、訪問により償還指導を実施し、完済者が増えた。
- 生活福祉資金では、就職までの生活費、住宅確保及び短大、高校の進学費用について貸付し、生活の安定が図られた。

(2) 災害見舞金等支給事業

市内で発生した火災等の災害により被災した世帯の状況に応じ、災害見舞金・援護物資を支給する態勢をとっていたが、該当する災害は発生しなかった。

項 目	実施結果・内容
寝具等の支給	支給実績なし。
災害見舞金の支給	
共同募金災害援護金の支給	
交通・災害遺児見舞金、就職激励金	

● 災害見舞金等支給実績の推移

年 度	H21	H22	H23	H24	H25
寝具支給数(組)	6	7	0	18	0
見舞金支給数(世帯)	8	4	3	5	0
見舞金支給額(円)	33,000	18,000	11,000	43,000	0

【評価】

- 平成 25 年度中は災害の発生がなく、平穏な年であったといえる。
- 今後とも該当する災害の発生に備え、迅速かつ適切に対応できる態勢をとっていく。



Ⅳ 受け継がれるまちづくり

地域福祉活動を継続的に展開するため、住民の福祉意識の高揚と担い手の育成に努めた。

1. 福祉意識の啓発

(1) 広報・啓発事業の実施

広報等による福祉情報の発信や住民参加型啓発活動を通じて、地域住民の福祉意識の啓発活動を実施した。

項 目	実施結果・内容
福祉情報発信事業	市の広報紙、新聞、有線放送、CATV、ホームページ等を活用し、地域住民への情報提供に努めた。
社協内事業所見学会の実施	4月25日（木）開催の新任役員等研修会において、新たに就任した役員の皆さんに社協内事業所を見学していただいた。 また、市老人クラブ連合会女性部など、視察に訪れた皆さんに随時社協内事業所を見学していただいた。
機関紙「社協 おおまち」の発行	年6回（偶数月1日発行）全戸配布10,000部を発行。「結果報告型」から「課題提起・解決型」の要素を盛り込むなど、内容充実に努めた。
ホームページの充実	より閲覧しやすいホームページにするため、管理業者とリニューアルの打ち合わせを行い、仮設ページを準備した。（次年度早期に公開予定。）
市民参加型啓発事業の実施（福祉標語募集等）	○福祉啓発標語の募集 小・中・高等学校・一般より 応募総数513点 ボランティア交流研究集会にて入選作品の表彰を行い、市役所市民ホール・市総合福祉センターでの展示や、ボランティアニュースに掲載し、福祉意識の啓発に努めた。
地域福祉活動計画の普及・啓発	事業計画策定において、地域福祉活動計画の項目を盛り込むとともに、次年度リニューアル予定の仮設ホームページに特集記事を掲載した。
顕彰の実施（社会福祉功労者等の表彰）	10月5日（土）開催の市民ふれあい広場オープニングセレモニーにおいて、社会福祉功労者表彰と多額金品寄附者への感謝状贈呈を行なった。

● 表彰者数（個人20名、団体9団体）

区分	表彰基準	表彰者数
表彰	本会役員	2名
	民生児童委員	9名
	保護司	1名
	心配ごと相談員	1名
	社会福祉事業団体役員	5名
	優良活動団体・個人	8団体
	特に功績顕著な者	2名
感謝状	多額金品寄附（団体）	1団体



受章者の皆さん（10/5 市民ふれあい広場にて）

助け合い とっても大事 その心

（大町西小学校3年 大塚 瑞生さん）

思いやり 一人一人を つながかぎ

（大町北高等学校2年 栗林 唯さん）

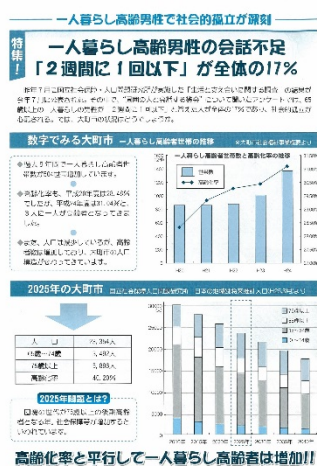
福祉啓発標語入選作品

● 機関紙「福祉のまちづくり」の発行内容

号 数	発行日	主な記事
163号	4/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ H25事業計画、予算 ・ 会員募集！小地域福祉ネットワーク ・ ネットワークの皆さんへ活動インタビュー ・ 社協備品貸出事業の紹介
164号	6/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ H24事業報告、決算 ・ 地区社協事務局へインタビュー ・ 社協の相談窓口紹介
165号	8/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民活動「遊休農地への取り組み」 ・ 権利擁護に関する制度の紹介 ・ 東日本大震災レポート「今求められる支援は」（山田町社協より） ・ 共募「安心安全なまちづくり活動支援配分金」受取者インタビュー
166号	10/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特集！一人暮らし高齢男性の会話不足 ・ 住民インタビュー「高齢者会話不足、地域で感じることは」 ・ 復興支援イベント さんままつり in 大町 ・ 共同募金運動が始まります
167号	12/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特集！高齢者宅の雪かき支援「雪かきは誰がやるの？」 ・ 住民インタビュー「雪かき支援をされている皆さんより」 ・ 社協の1年トピックス
168号	2/1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新春座談会「介護予防で自立した生活を送れるように」 ・ 午年インタビュー「今年チャレンジしたいことは」 ・ 共同募金お礼

【評価】

- 広報紙については、地域で活動している住民に多くご登場いただき、地域活動の周知啓発を図ることができた。また、住民からも紙面の充実について好評をいただいた。
- ホームページについては、画面が見づらく、更新頻度も低いことから、あまり閲覧されていない状況にある。有効に活用できるよう早急にリニューアルしていきたい。
- 福祉啓発標語の入選作品のホームページや会議資料への掲載、各公民館での展示等により、地域の方が広く目にし、福祉意識の啓発につながるよう、有効に活用していきたい。
- 多くの学校での取り組みから応募数の増加もみられた。さらに、市民の方に関心を持ってもらえるよう、広く周知していきたい。



当事者の声 一人暮らしの高齢者にお聞きしました

「一人で生活するのは寂しいけど、地域活動に参加することで、新しい出会いが生まれる。それがとても大切だ。」

「地域活動に参加することで、生活が豊かになる。特に、高齢者同士の交流は、心の支えになる。」

誰もが安心して暮らし続けたいためには、普段から地域での関係づくりがポイント！

地域の関係づくりに小地域福祉ネットワークを……

小地域福祉ネットワークとは？

「住民同士が助け合い、地域を元気にしていく。それが私たちの目標です。」

● 声かけ活動 ● 地域活動 ● サービスの提供

お互いさまのまちづくり 第168号 平成28年2月1日

社協 おおまち

われら 年男 年女!!

「地域活動に参加することで、生活が豊かになる。特に、高齢者同士の交流は、心の支えになる。」

「地域活動に参加することで、生活が豊かになる。特に、高齢者同士の交流は、心の支えになる。」

特集！一人暮らし高齢男性の会話不足（166号 10/1 発行）

年男 年女（午年）の皆さんに表紙を飾っていただきました。（168号 2/1 発行）

(2) 生活課題の調査・研究

① 生活課題調査研究

項 目	実施結果・内容
地域ニーズ調査 調査結果の分析	○新春座談会 高齢化の進行及び、制度改正により介護予防に関する情勢が変化していく中で、介護予防に関する座談会を、市内で活躍されている6名の方に参加いただき開催。どのような活動が必要か語っていただいた。 意見) ①介護予防は身近な問題。危機感を持つことが大切。 ②つまり、なんらかの形で意識啓発をしていくことが求められる ③年齢や体の状態などはさまざま。単に運動するだけでなく、その人に合わせた介護予防を開発し普及していくことが大切。
各種団体との課題共有 と解決策の検討	座談会の意見を参考として、小地域福祉ネットワーク等で担うことができる内容について次年度以降検討していきたい。

② 役職員研修会の開催

市社協理事と大町地区社協理事及び関係事務局職員を交え、合同の先進地視察研修を開催した。

期 日	平成25年11月18日(月)
視 察 先	伊那市社会福祉協議会 ・ (株)J I N R I K I
参 加 者	23名(社協理事11名、地区社協理事5名、事務局職員7名)
視 察 内 容	○伊那市社会福祉協議会 ・ 成年後見センターについて ・ ボランティア地域活動について ・ 社協の財源確保について ・ 障害福祉サービス事業所視察 ○(株)J I N R I K I 車いすに装着することで、悪路走行も可能となる「J I N R I K I」の試乗体験。

【評価】

○座談会については、広報への掲載により啓発を含めよいご意見をいただくことができた。
○しかし、その意見を参考とした事業展開までに至っていないため、必要な項目については、事業等の形にしていくことが必要。
○視察については、大北地域でもその設置について要望がされている成年後見センターについて貴重なお話を伺うことができました、J I N R I K Iについては、ボランティアセンター運営委員会でもその購入が検討される等一定の成果が出された。



新春座談会

～介護予防で自立した生活が送れるように～



役職員視察研修 (伊那市社協)

2. 地域の担い手育成の推進

(1) 地域の担い手育成事業

地域住民や子供たちへの福祉教育の推進や地域福祉活動のリーダーとなる担い手育成に努めた。

① 福祉教育推進事業

項 目	実施結果・内容
地域や学校への福祉出前講座の実施	○学校への出前講座 5小学校(15回) 3中学校(4回) 1高校(17回) 高齢者疑似体験、手話学習、点字学習、車いす体験、アイマスク体験 ○地域等への出前講座 11回(大町HP、JA大北平支所、ネットワーク等) 高齢者疑似体験、レクレーション指導等
障がい者スポーツ「ボッチャ」の普及	○自治会や小地域福祉ネットワークでの三世代交流会や障がい者とのレクレーション活動等で活用 19回
小中学生を対象としたボランティア講座の開催	○実施時期 6月～2月 9回 ○受講者数 18名 ○内 容 点字、手話、要約筆記、朗読、視覚障がいの方との交流等

② 地域福祉担い手育成事業

項 目	実施結果・内容
ボランティア基礎講座の開催	○男性の料理教室 2月6日(木) 大町公民館分室 参加者6名 「地域の食材を使った料理」 郷土料理研究家 長嶋勇次氏
ボランティア養成講座・スキルアップ講座の開催	○ボランティアリーダー研修会 2月27日(木) 大町市総合福祉センター 参加者34名 「じゃんけんであそぼう」 レクレーションインストラクター 種山正子氏 ○保育サポーター養成講座 5回 平公民館 読み聞かせ、ボランティア、幼児安全講習ほか

③ 企業ボランティア育成事業

アンケート調査を基に、企業が行なっている社会貢献活動を把握分析したが、具体的な関わりを持つまでには至らなかった。

【評価】

- 今年度は地域や学校での出前講座も増加し、体験学習や当事者との交流を通じて、日常生活での福祉の関わりについて考える機会となった。
- 男性の料理教室開催により、新たな世代とのつながりができた。継続して、教室を開催しボランティア活動につなげていきたい。
- 今後、企業の活動をより把握し、広報紙で紹介するなど、企業ボランティアとの連携を図っていきたい。

(2) 福祉団体等助成事業

福祉団体やボランティア団体等への助成金の早期交付と活動支援を行い、地域福祉活動を行う団体の育成を図った。

項 目	実施結果・内容
福祉団体への助成金交付	○効率的・効果的に助成金を活用していただくため、早期交付に努めた。 ・助成金申請受付（4/30締切） ・助成金交付決定（5/7） ・助成金交付（請求書を受領次第随時交付とし、5月中に交付完了）
新規設立ネットワークに対する助成金の交付	○新規設立ネットワーク（1地区）に対し、助成金を交付した。 ・八坂大平自治会
ボランティア活動団体への助成金の交付	○ボランティア団体が行う活動に対し、助成金を交付した。 ・助成グループ 15グループ 394,989円
共募財源による助成金の公募態勢の整備	共同募金組織改変に合わせ整備予定であったが、本年度は組織改変の勉強会を実施した結果、大きな改変であり、他市町村の状況を把握する中で、慎重に行うこととしたため未整備。翌年度以降検討。
ボランティア活動保険加入助成	○登録ボランティアのボランティア活動保険掛金を一部助成した。 ・一人あたり 140円 1,709人 239,260円

● 地区社協助成金交付実績（会費財源）

（単位：円）

地区名	地域交流事業	啓発活動事業	災害時支え合い活動事業	ネットワーク支援事業	合計
大町	145,000	107,000		683,900	935,900
平	100,000	100,000		167,500	367,500
常盤	167,000			180,000	347,000
社	167,000			169,700	336,700
八坂	80,000	10,000			90,000
美麻	153,000				153,000
合計	812,000	217,000	0	1,201,100	2,230,100

● ボランティア活動団体助成金交付実績（会費財源）

団体名	事業内容	助成額
安曇養護学校大町地区PTA	地域貢献活動（施設花植え等）	30,000円
大町市観光ボランティアの会	学習研修活動（ガイド研修）	14,300円
大町市婦人会	地域貢献活動（おむつたたみ等）	6,000円
大町市朗読グループかっこう	福祉教育啓発活動（朗読図書作成等）	13,000円
大町点訳ほたるの会	福祉教育啓発活動（広報誌の点訳）	18,000円
シニア大学常盤地区同窓会睦会	地域貢献活動（駅前草刈活動等）	30,000円
おきあがりこぼし	学習研修活動（学習会）	25,000円
傾聴ボラきくさく	学習研修活動（学習会）	22,879円
賛助会大町グループ	地域貢献活動（福祉施設交流等）	15,000円
チェリーボム	啓発活動（発達障害学習会）	50,000円
ファミリーサポートバンビ	学習研修活動（子供向け調理実習等）	45,000円
ゆずり葉の会	地域貢献活動（高齢者交流会）	45,000円
アッサンブレ	啓発活動（障がい者との交流事業）	15,000円
大町山岳博物館友の会	学習研修活動（ガイド研修会等）	40,000円
おはなしの会「やしろ」	学習研修活動（学習会）	25,810円
合 計（15団体）		394,989円

● 福祉団体助成金交付実績（共同募金財源）

（単位：円）

団体名	助成額	団体名	助成額
大町市老人クラブ連合会	50,000	大町市民生児童委員協議会	55,000
大町市身体障害者福祉協会	35,000	大町市保護司会	25,000
大町市手をつなぐ育成会	30,000	大町市遺族会	30,000
大町市母子寡婦福祉会	45,000	大町市更生保護女性会	10,000
大町市子ども会育成連絡協議会	50,000		
合 計			330,000

● 新規設立小地域福祉ネットワークへの助成金交付実績

（単位：円）

自治会名	ネットワーク名	助成額
八坂地区大平自治振興会	大平地域健康づくりクラブ寿会	50,000

【評価】

- 助成金を効果的に活用いただくため、早期交付の流れが定着した。
- ボランティア活動団体助成金は、早期助成金交付は実施できたが、今後、新たな団体の助成金活用の増加に向け、説明会等で広く周知していきたい。
- 今後は、新たな助成金事業の開発を含めた助成金自体の在り方を検討する必要がある。



ボランティア団体助成（高齢者への活動）
～ゆずり葉の会 おはぎ会～



小地域福祉ネットワーク助成金
～大平地域健康づくりクラブ寿会～
（体操教室）